

イカリソウ



イカリソウ *Epimedium grandiflorum* MORR. var. *thunbergianum* (MIQ.) NAKAI はメギ科 (Berberidaceae) の多年草で、春の野山を飾る美しい花の一つである。名前の由来は花の形が川舟など小型の舟に用いられる碇 (錨) に似ていることから付けられている。日本には数種類が自生しており、普通イカリソウとよばれるのは、本州の太平洋側に広く分布し、紅紫色の花を付ける *E. grandiflorum* var. *thunbergianum* のことである。しかし、それぞれの土地によって、よく見られる種類をイカリソウと呼んでいることがあるため、イカリソウの花は紅紫色だと思っている人がいたり、淡黄色だと思っている人がいたりする。大阪近郊では、ハイキング程度の軽装で手軽に行ける、大和葛城山で淡黄色の花を付けるツハヤキイカリソウ *E. sempervirens* var. *multifoliolatum* を見ることが出来るし、また少し足を延ばせば、伊吹山で紅紫色の花のイカリソウを見ることが出来る。園芸店でよく見られるものにバイカイカリソウ *E. diphyllum* があるが、これは名前のように、花が梅花咲きであり、イカリ (碇) の形をしていない。生薬の淫羊藿は本属 (*Epimedium*) 植物の地上部であり、本草綱目に陰痿勃起不能、小便淋瀝、半身不随、健忘、

腰膝無力、四肢不仁を治すと記載されている。今日でも本生薬は用いられており、冠心病、神経衰弱、健忘症、高血圧症等の治療に淫羊藿を、月経不調、小児夜盲症、虚淋、白帯等の治療に淫羊藿根を用いている。淫羊藿の基原植物はこれまでホザキイカリソウ (中国名: 箭叶淫羊藿) *E. sagittatum* とされていたが、最近の研究から、現在では心叶淫羊藿 *E. brevicornum* が正基原植物とされている。しかし、実際には数種類の *Epimedium* 属の植物が生薬として用いられているようで、1985年版の中華人民共和国薬典には、心叶淫羊藿 *E. brevicornum*、箭叶淫羊藿 *E. sagittatum*、柔毛淫羊藿 *E. pubescens*、朝鮮淫羊藿 *E. koreanum* が記載されている、本属植物の成分としては、プレニルフラボン類が多数報告されており、それらのマウス貧食能活性化作用等も研究されているが、有効成分等については今暫くの研究を待たねばならない。

(文、総・小澤 貢、写真・喜多俊二)





新入学生を迎えて

学 長 藤 田 榮 一

新入生の皆さん。大阪薬科大学薬学部および大阪薬科大学大学院博士前期課程への御入学おめでとう。また大学院博士後期課程への進学おめでとう。心からお祝い申し上げます。

さて学部入学の皆さんは今日から薬学を学ぶことになりました。皆さんの選ばれた道は誠に価値ある、やりがいのある道であると断言することができます。何故ならば、病気で苦しむ人達にとってなくてはならない医薬品を対象とした学問、さらに人々の保健衛生の向上に寄与する学問である薬学こそ、人類の福祉に貢献する最も人道的な学問であるからであります。

大学院に入学、進学の皆さんは、今日からさらに専門的な高度な学問にとり組まれることとなります。より深い専門的知識と、より高度の研究者としての見識との涵養に精励して下さい。

これまでの入学試験のための勉強は、必ずしも皆さんの人生にとってプラス面ばかりではなかったとも考えられますが、努力と忍耐の重要性を経験されたことでしょうか。本来勉強というものは、主体的に自分の意志でとり組むべきものであります。学問や勉強というと、受験勉強の体験から、苦しいもの、退屈なものと思われるかもしれませんが、実際はそうではなく、未知の世界に入りこんでゆくことは、自らの好奇心を刺激して楽しく喜ばしくするものであります。学問というと大変固苦しく困難なもののようにうけとられがちであります。が、そもそも考えることがすなわち学問であり、考えることにより新しいことを知る喜びを知っている人なら誰でも親しむことのできるものであります。人は十人十色といわれるように一人一人、みな姿、形がちがいが、考えや好みもちがいます。そしてそれぞれ自分の知らないかくれた能力を持っています。学問をし勉強をすることにより、自分にかくされている能力をひき出すことの喜びは、誠に大きいものであります。大学は自主的に勉強するための場を提供します。幅広い数多くのメニューを提供します。皆さんそれぞれの能力を引き出すためのお手伝いをするわけです。これが講義であり実習であり演習であるわけです。

薬学には三つの大きな分野が含まれています。その一つは薬をつくることに関係し、第二は薬を使うこと

に関係し、もう一つは国民の保健衛生に関係します、そのいずれの分野においても、患者や一般市民を対象としており、常に弱者の立場にある人達に対して深い人類愛を基盤として行動しなければならないということが、薬学関係者の根本理念でなければならないと確信します。

ともあれこれらのうちどの分野に将来進むにしろ、薬学領域におけるこれらの専門分野の中から将来自分に最も適した領域を選び、そこで十分に能力を発揮できるようになるためには、巾広いたゆみない勉強と努力が必要であります。

大学院入学の皆さんはすでに自分の専門分野をかなり明確に選ばれました。これからが学問研究の本当の楽しさを味う時期であると思います。

さて積極的に主体的に勉強するというのは、一体どうということなのでしょう。これは先生方から講義をきいて知識を貯えるというだけではなく、それを糧として自分で考える習慣をつけることであります。入学試験のための勉強のようにせまい目的のために強制される勉強ではなく、常に自分で考えて前進するものでなければなりません。そういう勉強をじっくり腰を落着けて始めていたゞきたいと思います。皆さんの人生において最も大切な時代が、真に充実した活力ある前進の時代となるように、切に祈ります。

大学生活のもう一つの重要な一面として、友人達と力を合せて共同生活を営むクラブ活動があります。共通の目的のために若い情熱を燃やして相共に協力し努力する体験は、それがスポーツであれ、文化活動であれ、必ずや皆さんの人生に永遠につづく深い感銘を与えるにちがいがありません。強く麗わしい友情の絆は皆さんの一生を通じて、大きなうおいを提供するにちがいがありません。大学院入学の皆さんはすでにクラブ活動を通して、それぞれ貴重な経験を積まれたことと思います。学部新入生の皆さんも大いにクラブ活動を体験されることをすゝめたいと思います。

最後になりましたが、どうかくれぐれも健康に留意して、怪我や病気の不幸におちいることのないように、そしてこの大学生活が、皆さん一人一人にとってのり多いものでありますように、心から祈ります。

新入生を迎えて

教務部長 栗原 拓史



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。本学での入学試験からはや2ヶ月、その間ひたすら今日の日を待ち焦がれていた諸君、さらには国公立大学を受験しながらも涙をのんだ諸君、本日から

皆さんはこの伝統ある大阪薬科大学の学生です。将来医療の現場で、あるいは製薬関連企業で国民の健康と幸福に寄与し、社会に貢献する薬剤師の卵であり、またより深く生命科学の中の薬学を探求しようとする薬学研究者の卵であるわけです。大いにその事に誇りを持ち、また自覚せねばなりません。

この誌を手にもされる頃は、すでに授業に、クラブ活動にと少しは大学生生活に慣れ楽しんでいることでしょう。しかし、敢えて苦言を呈しましょう。今こそ入試をクリアーしたほっとした気持ちをかなぐり捨て、この1回生の時から真面目に勉学に励む習慣をつけることが大切です。ややもすれば、ただ進級するために、

また卒業するためだけに単位を取得すれば良いのだといった消極的な悲しむべき風潮が一部の学生に見られる現実を大学として厳粛に受けとめております。更に、4年間という決して長くない期間に、ますます多様化する職域に対応し得る薬学士、薬剤師を育てるための教育はいかにあるべきか?……などといった問題も含め、昨年来カリキュラム検討委員会が設置され、今年度から試験制度も含めたかなり大幅な改正が実施される運びとなりました。新入生諸君に適用される制度は上級生のそれとはかなり異なっております。特に前、後期の定期試験の不合格者に行われていた再試験が廃止されたことは本学において初めての経験で、未修得科目が6科目以上になった場合、即進級出来ないこととなります。大学として諸君の奮起に期待すると同時にその成り行きに注目しているところです。

その他、一度のガイダンスでは十分に理解出来なかった事もあるでしょうが、履修規定を熟読し、掲示物に注意を払い、さらに不明な点は教務課に問い合わせることを心掛けて下さい。

最後に実りある学生生活を送られんことを祈ります。

新入生を迎えて

学生部長
事務取扱 望月 伸三郎



新入生の皆さん、ご入学おめでとう! 学生部を代表して新入生の皆さんにご挨拶とお願いを申し上げます。

大学では、皆さんに認識を新たにしていきたいことが沢山あります。大学は高校

の延長ではないということです。ドイツのカール・ヤスパースの言葉を借りると「知識というものは獲得され、伝達され、応用されるという3つの働きによって、しかもその相互のダイナミックな働きの関係によって無限に発展する。大学というのは人類のこの基本的な知識欲が制度化されたものである。」知識の獲得は研究であり、伝達は教育、応用は社会奉仕といわれる。

本学はこれに対応するような形で、知識の獲得のための「教務部」、教育のための「学生部」、社会奉仕のための「就職部」の3つの部が置かれています。そのなかの学生部は学生の生活、大学の教育を通して豊かな人間性を育てるための援助機関といえます。その

意味で学生部(直接には学生課)を利用する形で連絡を密にして下さい。

大学生は成人であり、高校生は未成年であります。未成年の行動には保護者を必要とします。本学に限らず、最近の大学生を見ますと、親や先生に保護され、甘えた生活をそのまま持ち込む主体性に欠ける姿が見られます。

人間は集団で生活し、その中で各個人が分業の責任を果さなければ、生きることが難しい今日の社会です。集団にはおのずと規律があり、マナーがあります、更に、気持ちよく生きるには相互理解が必要です。相互理解の第一歩は挨拶から始まるといえます。「おはよう!」「さようなら!」の回数が多くなると自然な会話が生まれ、理解が深まります。「テレ臭い」「恥かしい」は未成年(子供)の甘えと許されても大人の社会には許されません。その意味でも、新入社員の研修が挨拶の特訓から始まるのです。「お早よう御座います!」「さようなら!」「失礼します!」といった言葉が自然に習慣化し、生活態度に自主的な行動で自己表現出来る社会の一員として、立派な人間に成長することを願っています。

就任に際して

就職部長 森 逸 男



拡大教授会において思いも
かけず就職部長に選任され、
その責任の重さを痛感してい
る次第です。大学院などへの
進学、あるいは就職を希望し
ない人は別として、将来を決
定する就職に無関心な人はい
ないものと考えます。既に本
学に入学した時点で、ある程
度就職の方向は決定されているわけですが、4年次生
となり最後の就職への分岐点が近づいてきました。本年（平成2年3月卒）卒業生の進路状況は下表（詳細は「父兄会報」参照）のように好成績となっておりますが、これは前部長沼田教授の精力的、且つ親身の御指導・努力の結果であり、敬意を表する次第です。

この2～3年来、人手不足、売手市場などと世評されておりますが、薬系卒業生の増加・薬価切下げなど、決して本年度は就職に楽観は許されません。特に、昨

年度に比べ女子学生数の著しい増加を考えますと女子の製薬関連企業への就職は前途多難と思われれます。就職斡旋にはいろいろ難しい問題が山積しますことより、製薬関連企業、病院診療関連、医薬品販売関連の御支援、並びに教職員の御援助、御協力がなければ就職活動は困難ですから、更に一層の御支援を御願い致します。学生諸君も日頃より生活態度に十分気をつけ、常に誠意と真摯な態度で礼儀を忘れることなく、今後の就職戦線に臨まれんことを切望致します。



就職部だより

就職は男女に関係なく人生の岐路といえる大切な問題であり、しっかりと自分の進路、職業観を確立したうえで就職活動に取り組むようにしましょう。就職活動には第1段階として、各種情報誌などを通じて就職情報あるいは資料の収集にポイントをおいた準備活動が、第2段階として、企業の絞り込みをするため先輩などの訪問、業界研究会、各種セミナーへの参加が必要です。「企業研究は早目に、活動はじっくりと」を基本に若々しい覇気をアピールしてがんばりましょう。

平成2年3月卒業生(37期生) 修了生(14回) 進路状況一覧

平成2年3月20日現在

		男 子			女 子			総 計	%
		薬学科	製薬学科	計	薬学科	製薬学科	計		
就 職	薬業・製薬(営業・管理薬剤師)	9	28	37	5	3	8	45	20.3
	(研究・開発・品質管理)	5	4	9(9)	29	19	48	57(9)	25.7(64.3)
	会社・卸売(営業・管理薬剤師)	0	0	0	2	0	2	2	0.9
	化学・食品・化粧品会社	1	6	7	7	4	11(2)	18(2)	8.1(14.3)
	機器販売・商社・その他	0	0	0	7	0	7	7	3.2
	病院・診療所	2	4	6	23	6	29	35	15.8
	小売薬局	1	0	1	4	1	5	6	2.7
	公務員	0	2	2	1	1	2	4	1.8
	大学職員	0	0	0(1)	3	6	9	9(1)	4.1(7.1)
	自家業 その他	2	0	2	0	0	0	2	0.9
未決定者	2	1	3	2	1	3	6	2.7	
進 学	大学院	0	14	21(2)	2	1	3	24(2)	10.8(14.3)
	大学(研究生)	0	1	1	0	0	0	1	0.4
	病院(研修生)	0	0	0	1	1	2	2	0.9
	受験中	1	0	1	0	0	0	1	0.4
就職希望しない		0	2	2	0	1	1	3	1.3
計		30	62	92(12)	86	44	130(2)	222(14)	100(100)

() 内の数値は大学院修士課程修了生を示す



森坂勝昭教授逝去さる

平成2年1月30日午前11時森坂勝昭先生は、奈良県北葛城郡の自宅で逝去されました。前々年の6月頃より体の不調を訴えられ大阪医科大学付属

病院に入院、7月に胃の手術をうけられ、その後療養に専念されていました。

手術後、11月頃より週一度位大学に来られ、また理事会、教授会等の重要な会議にも出席されておりました。しかしながら完全なる快復には至らず、昨年の秋より病状が思わしくなく奥様、御家族の手厚い看護の甲斐もなく他界されました。

葬儀は2月1日大阪市長居の臨南寺会館でとり行われ、御親族はじめ大阪薬科大学関係者、学会関係者や

友人、知人等大勢の方々が全国各地からお詣りされました。(写真下)

また、3月17日本学体育館において本学教職員、学生、同窓会など多数の参列のもと追悼式がとり行われました。



森坂勝昭教授の御逝去を悼む

学長 藤田 榮 一

平成2年1月30日、大阪薬科大学教授 森坂勝昭先生が逝去されました。誠に悲しみの極みであり、こゝに謹んで御冥福をお祈りいたします。

故森坂勝昭先生は、昭和40年10月以来本学教授として教育、研究に献身されました。昭和26年4月、本学助手として赴任されてから数えると、実に39年の長きにわたり、本学教員として重責を全うされたわけでありました。またこの間、理事、評議員などの法人役員として、本学運営に参画され、誠に大きな貢献をなさいました。

森坂先生は真に本学に根をおろし、心から本学を愛し、本学の発展のために全力をあげて邁進してこられました。先生の烈々たる気迫と行動力は、常に本学進歩の推進力を生み出してまいりました。その具体的な一例として、全国に先駆けて四年次生希望者の三ヶ月にわたる長期病院実習の特別実習へのとり込みの実施があげられます。

先生は薬剤学の教授として学部専門課程の講義、実

習は言うにおよばず、研究室において大学院修士課程の院生諸君や教室配属の四年次生の諸君の教育および研究指導に専念され、多数の英才を世におくり出されました。学界や薬業界、病院薬剤部等の広範な分野で、同教室出身の卒業生が活躍され、社会に大きな貢献をもたらしておられます。自らは研究室の陣頭に立って、最新の研究課題を明確にとらえ、その推進に率先垂範してこられました。その研究業績は国際的にも高い評価を受けております。

以上のように教育、研究面での御活躍、法人役員としての御貢献以外にも、研究委員長、就職部長、実験動物センター長などの要職を歴任され、実に精力的に御尽力を賜りました。

本学が将来の益々の発展を目ざしているこの重要なときに、本学とともに歩んでこられた先生を失ったことは、誠に痛恨事でございます。あとに残されたわれわれ一同、心を新にして一致協力のもと、本学の輝かしい発展にむけて努力する覚悟であります。どうぞ森坂先生、安らかにお眠り下さい。

叙位叙勲の榮譽

1月30日逝去された森坂勝昭教授は2月23日付で、従五位勲四等に叙せられ、瑞宝章を授与されました。

故森坂勝昭理事を偲んで

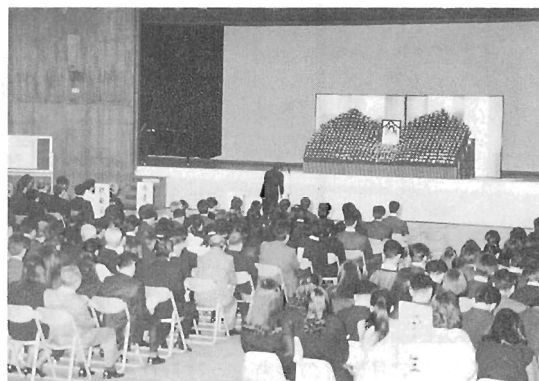
理事 大村 栄之助

大阪薬科大学教授、学校法人大阪薬科大学理事森坂勝昭先生の突然の訃報に接し、まことに哀惜の念に耐えません。

森坂先生は昭和26年京都大学医学部薬学科を卒業後、大阪薬科大学の助手となられ、爾来、講師、助教授と昇任され、昭和40年10月教授に任用され、以来25年間本学薬剤学の教授として多くの学生を指導され、また研究に従事してられました。

先生はつとに薬学の中での薬剤学の重要性を認識され、従来から研鑽を積まれておられた物理化学、分析化学の素養をいかし、薬物の生体内の運命について、特に消化管吸収を中心とする新しい生物薬剤学の分野に研究を展開されました。その優れた業績は学内のみならず、学外からも高く評価されておられます。特に薬物送達システムすなわちDDSの研究が大きくクローズアップされるようになり、先生の長年の研究がさらに大きく花ひらくことを期待されていたやさぎに亡くなられましたことは誠に残念でなりません。先生の先見性に心から敬意を表しますとともに、残された数々のご業績を、こゝにあらためて顕彰致したいと存じます。

先生は学内外において広く研究分野の委員としてまた委員長として活躍されました。本学の運営については昭和50年評議員、昭和53年からは理事として、教育、



本学での追悼式

研究、管理の全般にわたり、理事長、学長を補佐して積極的に任務を遂行されました。中でも先生の特筆すべき業績の一つは、病院研修制度を全国にさきがけて確立したことであります。今日、ようやく全国の薬科大学においても病院実習の重要性が認識され、制度化することが論議され始めています。先生の着想のよさと、その行動力は高く評価されるべきとおもいます。

先生とは理事会でお目にかかっておりましたが、大学の運営に関して絶えず厳しい意見を述べられておられた先生のお姿が浮かんでまいります。一方、美術、音楽に深い造詣をもたれ、多くの友人、後輩の方々に人間森坂として慕われていました。このような先生を病魔のためとはいえ、失ったことは誠に痛恨に耐えません。また御家族の皆様のご心情もいかばかりかとお慰めの言葉もございません。しかし先生の長年にわたり積み重ねられた数々のご業績は学界に、また大阪薬科大学に永久に残ることでしょう。

どうか今後とも大阪薬科大学の発展と、残された後輩の成長をお見守り下さい。先生の安らかなご冥福を心からお祈りいたします。

追悼の辞

教授 井上正敏

純白の雪に送られて君が旅立ってより、季節は移ろい桜花爛漫の春を迎えた。実に時の流れのはかなさを感じるこの頃である。



「森坂勝昭遺作集」より



森坂教授ご遺族と本学代表

思えば四十数年前、高知高校時代のあの抜けるような青空と風のさやかな音にも敏感であったあの純粋な若き日も、京大時代のクラシック音楽への傾倒も、助手時代、御神酒徳利と云われたことども今は唯過ぎざった日の忘れ得ぬ思い出である。

時の流れの中で風化さるべき君への思い出はしかし僕の心の奥深い部分にあたかも重質の沈澱のように沈積して決して流れ去り忘れ去るものではない。かえって日増しに君に対する哀惜は大になるばかりである。

君が今居る里はたとえ志半ばの旅立ちとはいえ精一杯生きた者のみに与えられる安息の地であろう。もはや何一つ気負うこと無く悠久の眠りにつくがいい。現し世の喧騒も無く、ただ静寂とあり余る刻がある筈だ。聴きもらした音楽を心ゆくまで聴き、好きだった絵を画くがいい。

そのような君の姿を思うことで僕もやがて安心して旅立てる。

友よ安らかに眠れと祈るばかりである。

合掌（H. 2. 4. 7）

森坂勝昭先生を偲んで

第二薬剤学教室 助教授 森 本 一 洋

私は、故森坂勝昭先生より本学入学（昭和44年）以来21年間という長きに亘り御指導賜りました。ここに先生の追悼文を書くことになるとは全く痛恨の極みでございます。

私は4回生の時（昭和47年）先生の大きな人間性に

魅せられ、特研究生として先生の研究室に入りました。薬物の消化管吸収の研究に興味をもち、卒業後も引き続き先生の研究室に残ることになりました。先生は私のような若輩の言うことも聞いて下さり、自由な発想で研究することができましたが、先生の御指導は決して甘いものではありませんでした。先生は研究に対して決して妥協を許さず、また「医療のために役立つ研究をしろ」と常々おっしゃっていました。先生の指導のもとに進めてまいりましたドラッグデリバリーの概念をもとにした生理活性ペプチドの経皮・経粘膜吸収に関する研究もやっと国際的に評価されるようになりました。この先も長く先生の御指導を仰げる筈でしたが残念でなりません。

先生は教育に対しても非常に熱心な方でした。その一つは、先生が尽力されました病院実習制度の本学カリキュラムへの導入です。100名近い学生の3ヶ月間に亘る病院実習は一般的には不可能と考えられていましたが、先生は自らの足で大阪一門の病院をまわりこの制度の必要性を説かれました。このような先生の情熱には敬服させられました。

先生は学問のみならず人間としての生き方についても身をもって教えて下さいました。私は先生の一旦決めたことは絶対やり通すという執念のすごさにいつも驚いていました。それは雨の日も風の日も毎日されたランニングであり、趣味のオーディオ、音楽鑑賞、また自ら筆を執られた絵画でありました。それらはすべて趣味の領域を越えたものでありました。

私達は偉大な師を失いましたが、この悲しみをのり越え先生の御遺志を引きつぎ、教育や研究、また医療の発展のために努力していく所存であります。先生、長い間の御指導ありがとうございました。



「森坂勝昭遺作集」より

平成2年度予算の概要について



事務局長 吉 野 幸 夫

去る3月26日開催された理事会および評議員会において、学校法人大阪薬科大学の平成2年度予算が決定されたので、従来の例により、消費収支予算書の総括表によって、その概要を説明することとしたい。

消費収入の部について

平成2年度における収入予算は、帰属収入から基本金組入額を差し引くと、16億187万円で、前年度比6675万円の減となる。その要点は、次のとおりである。

- (1) 学生納付金……授業料・入学金を主な内容とするもので、当年度においては、授業料増額に伴い、前年度比1億3430万円増の14億1650万円を計上。
- (2) 補助金……国からの経常費補助の漸減傾向にかんがみ、前年度比5100万円減の3億4020万円を計上。
- (3) 資産運用収入……銀行預金の利息を主な内容とするもので、当年度においては、金利の上昇傾向に伴い、前年度比4000万円増の2億円を計上。

消費支出の部について

平成2年度における支出予算は、18億1991万円で、前年度比6097万円の増となる。その要点は、次のとおりである。

- (4) 人件費……教職員の給与費を主な内容とするもので、当年度においては、予想されるベースアップを推

算して、前年度比5730万円増の11億7853万円を計上。
 (5) 教育研究経費……教育研究用の消耗品費・光熱水料等を内容とするもので、当年度においては、おおむね前年度実績に従うこととし、前年度比1273万円増の5億3693万円を計上。

なお、この増額には、800万円の消費税を見込んでいる。

(6) 管理経費……施設管理費・事務費等を内容とするもので、当年度においては、学生寮における食費関係を業者扱いとすることなどにより、前年度比783万円減の5966万円を計上。

基本金組入額について

昭和63年度から、将来の校舎建築のための資金として、毎年度1億円を積立てることとなったが、授業料増額に伴い、当年度よりこれを2億円に引き上げることとし、基本金組入額を増額することとした。

翌年度への繰越額について

以上により、平成2年度における消費収支は、2億1804万円の支出超過となるが、前年度からの繰越額が4億2788万円あると見込まれるので、差し引きすれば、平成3年度への繰越額は、2億984万円となるものと算定される。

平成2年度消費収支予算書総括表

〔平成2年4月1日から
平成3年3月31日まで〕

消費収入の部 (単位円)				消費支出の部 (単位円)			
科 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減 (△)	科 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減 (△)
学 生 納 付 金	1,416,500,000	1,282,200,000	134,300,000	人 件 費	1,178,530,000	1,121,230,000	57,300,000
手 数 料	80,600,000	80,200,000	400,000	教 育 研 究 経 費	536,930,000	524,200,000	12,730,000
補 助 金	340,200,000	391,200,000	△ 51,000,000	管 理 経 費	59,660,000	67,490,000	△ 7,830,000
資 産 運 用 収 入	200,000,000	160,000,000	40,000,000	借 入 金 等 利 息	14,790,000	16,020,000	△ 1,230,000
事 業 収 入	12,350,000	15,920,000	△ 3,570,000	[予 備 費]	30,000,000	30,000,000	0
雑 収 入	50,940,000	47,100,000	3,840,000	消費支出の部合計	1,819,910,000	1,758,940,000	60,970,000
帰属収入合計	2,100,590,000	1,976,620,000	123,970,000	当年既消費支出超過額	218,040,000	90,320,000	
基本金組入額合計	△ 498,720,000	△ 308,000,000	△ 190,720,000	前年度繰越消費収入超過額	427,880,000	427,020,000	
消費収入の部合計	1,601,870,000	1,668,620,000	△ 66,750,000	翌年度繰越消費収入超過額	209,840,000	336,700,000	

新任の挨拶

教授 草野 源次郎

(第一生薬学教室)



本校の正門の左奥に、樹齡百年は超えたと思われるクスノキの大木が5本並んでいる。その端の木の根元に小さな祠があり、意味ありげである。大学の構内一帯は高台であったろうか。前を流れる川は護岸され、川底の深さからみて周辺は埋め立てられたが、以前は水田か湿地帯であったろう。その高台はクスノキの茂る鎮守の森ではなかったか。開発が進み、大学が建てられた頃に5本のクスノキが残されたのではなかろうか。構内にはもう少し若いと思われるクスノキが十数本見られる。これらは工事の折などに切り倒された親木の根元から生えた子木なのだろうか。

多くの人達をご存知のように、クスノキは太古から生きてきた。東亜の熱帯から亜熱帯に繁茂した常緑高木で800年以上も長生きする。木も葉もよくにおい、クスノキの和名は匂いと関係がある。神木としてあがめられ、今でも各地で名木や天然記念物になっている。カンフルを主成分とする精油を含み、その精油を分留して製する樟腦はセルロイド、フィルム、火薬、香料、防虫剤、パップ剤等の原料にされ、合成品に凌駕されるまでは、わが国の重要な輸出品であった。カンフルからビタカンファーが合成され、カンフル剤の言葉が残っているように、起死回生の強心剤であったが、医療技術の発達や優れた薬の出現等もあって、この薬は今では使われなくなった。

さらに、興味あることに、この木はダニと共生している。3本の太い葉脈の分岐点が小さくふくらんでおり、ダニが住みついている。この木が異常に多量のカンフルなどの精油成分を含むことと関係があるかも知れない。ダニのいないクスノキを育ててみたらどうなるだろうか。

この4月に仙台から赴任し、暖かい日射しと成長の進んだ植物に誘われて、構内の散策を楽しんでいる。植物を眺めて、太古の自然やそれぞれの時代を生きた人達の願いを想像し、蓄積された薬学的知見を思い起こしながら、これから先の展望を熟っぽく語り合いた

いている鎮守の森の学び舎を共に愛し、心豊かに過したい。

新任の挨拶に代えて駄文を綴った。謝々。

新任の挨拶

助教授 三谷 佐孝

(数学担当)



主の御名を讃美します。

「自分を愛する様にあなたの隣り人を愛せよ」マタイ22, 39。

イエスは律法の上に愛があることをその行動を通して教えています。そして最後に全人類の良き隣り人となったのであります。

現代は科学の時代から技術の時代への過度期でありまして、これはイデオロギーの時代から政策論争の時代へと政治面においても現れております。

文化の面では文化の中心が大学から研究所へと移ることになりました。また大学文化の最右にあるのが純粋数学でありまして、純粋数学の大部分は大学無くしては到底考えられないのであります。今後大学はどうなるか？ この様な時代に直面し、数学屋が今後やらなければならないことは技術者をはじめ他分野の方々との対話であり、まず数学屋自身良き隣り人とならなければならないのであります。

技術者の大学によんで頂いたことを心から感謝申し上げます。どうぞよろしく。平安があります様に。

1990. 4. 8 (棕梧の主日)

図書館の開館時間延長 (試行)のお知らせ

試行期間：平成2年5月28日(月)～6月23日(土)まで、4週間

延長時間：午後6時まで1時間(但し、土曜日
は従来通り)

延長時間中は図書閲覧および文献複写のみとする。

平成2年5月15日

—図書館長—

第一微生物学教室

教授 稲 森 善 彦



私が昭和42年微生物学教室に田中タネ先生（故人，当時助教授）の助手として就任させていたございました当時，研究室は本館3階東側に位置し，丁度現在の第33教室のあたりでございました。したがって，今でも教養の先生方に御用がございまして，附近を通りますと，なつかしく

感じます。翌43年，田中タネ先生は教授に御昇任直後，非常勤講師となられ，私が後任として，微生物学教室の責任者をお任せいたしました。その後昭和52年に，新装なった研究棟（通称B棟）の4階の一番奥の研究室に引越し，現在に至っております。研究室からは葛城山をはじめ河内平野が一望でき，研究に疲れた（？）教室員がベランダから山並みを眺めております。現在教室員として私の他に，辻坊 裕講師，本年4月1日就任の宮本勝城助手，吉田征生大学院生，4回生特別実習生（男子3名，女子3名）の計10名が狭い研究室にすし詰になっております。それでも全員が朝8時30分から9時までの間に，教授室の扉をノックし，元気よく挨拶をすませ，夜遅くまで真剣に研究に取り組ん



前列左から宮本助手，稲森教授，辻坊講師
後列左端吉田院生，他は特別実習生

吉田嶺吉教授ご退職

吉田嶺吉教授は，昭和52年に本学に御着任以来13年間にわたり，数学担当教員として，学生の教員と数学の研究に御精励になってきたが，平成2年3月末日付けをもって嘱託教授を退かれた。

これを記念する退職記念講演会が，3月23日（金）午後2時から開かれた。「半群とよもやま



でおります。私共の教室のテーマは主として微生物にまつわる天然生理活性物質の検索でございます。私の下では微生物産生ないしは植物由来の天然物質の抗微生物活性，植物生長阻害活性ならびに他の諸活性を検討しております。一方，辻坊 裕講師が中心となり，好アルカリ放射菌や海洋微生物の産生する酵素の精製に頑張っており，徐々に成果を挙げております。

一昨年，お隣の第二微生物学教室に教授としてウィルス学界の権威であらせられる保坂康弘先生が御就任になり，微生物学講座として名実共に出発することが出来ました。保坂教授の下に，黒田和道講師（元気な明るい人），鶴岡浩志助手（常に笑顔を絶さない人）とスタッフがそろい両教室で元気に日夜研究に励んでおります。2教室間でも，核酸誘導体をはじめ種々の天然物質の抗ウィルス活性の検討など共同研究も進みます。

なお，今後一層教育研究に専念し，将来有望な学生諸君の教育にわずかなりとも貢献できれば幸せと思っております。



話」と題して、これまで情熱を注いでこられた半群の御研究とそれにまつわる話題についてお話になり、本学の教職員、学生を始め多数が聴講した。ひきつずいて退職記念祝賀会が催されたが、吉田教授のお人柄を反映して、大変なごやかな雰囲気であった。吉田教授の御功績を讃え、永年の御苦勞に感謝すると共に、今後の変わらぬ御繁栄を祈念した。

学内施設の整備

— 講義室空調工事について —

従来の教室の空調設備といえば、電気によるヒートポンプ式の空調機が31教室だけに、その他の教室は、



屋上に設置された屋外機

夏季には天然のクーラー（?）、冬季にはFF方式によるガスクリーンヒーターというものでした。学生諸君の『暑い… etc.』というアンケート結果や今後のカリキュラム等も考慮して、また本学をより一層魅力ある大学にするためにも、各教室に空調設備を取り付けることとなり、2月下旬より工事にとりかかり、3月末に竣功しました。工事期間中の騒音・工事車両の通行などにつきまして、皆さんのご理解ご協力有難うございました。



この空調機は、ガスヒートポンプ方式（GHP）というもので、一般に液体が気化する時にまわりから熱を奪う、気体が凝縮して液化する時には熱を放出するという性質を利用して、冷媒（フロンガス）を循環させ強制的に気化・液化をくり返し、夏は室内の熱を屋外に放出し、冬は外気から熱を室内に取り入れるのがヒートポンプ方式ですが、このGHPは室外機のコンプレッサーをガスエンジン、つまり、タクシーによく使われている様なエンジンで作動させるものです。ここでこのGHPを採用したのは、主たる動力源としてガスを燃焼させるため、電気によるヒートポンプ方式と比較すると、ほとんど電気を必要としないので、夏季の電力需要のピークカットにつながることや、冬季の暖房運転時には、ガスエンジンを用いているためにヒートポンプ運転のみならず、エンジンの冷却熱や排気熱を回収利用するので暖房の立上がりやす速く、また暖房能力が高いというメリットがあるからです。

この空調設備を設置したことによって、学生諸君のより良い学習環境作りに一役買えればと思います。

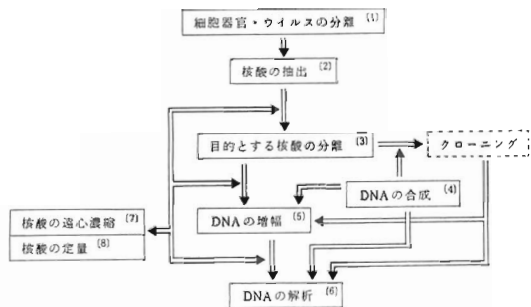
遺伝子解析装置

(1) 文部省に申請していた大阪薬科大学からの平成元年度計画『遺伝子解析装置』に対して、文部省から私立学校施設整備費補助金(私立大学、大学院等教育研究装置施設整備)交付(3150万円)の通知があり、2月中に関係装置が全て本学大学院演習室に導入設置された。今後、本学におけるこの分野の研究が飛躍的に発展することが期待される。申請チームのメンバーは石田、池田、稲森、井上、森坂、森本、保坂(世話人)の各教授および黒田、千熊、三野の各助教授乃至講師である(千熊博士は本年4月から教授)。

(2) 図1に全体のシステム構成を示す。全体としてラジオアイソトープを用いなくとも、遺伝子解析ができることを特徴としている。8つの機器からなり、各機器を番号順に簡潔に説明する。いずれも最新鋭の先端機器である。

1. 本超遠心機は最高回転数120,000 rpm (600,000 g)で0.2~1.0mlの微量試料が取り扱える。水平ローターも垂直ローターも揃えてある。

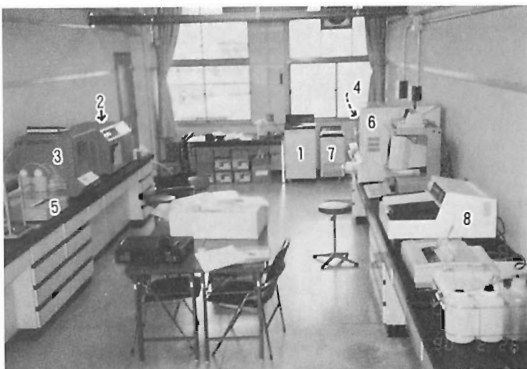
図1 [システム図]



[装置構成]

- [1] 細胞器官・ウイルス分離用超遠心機 CS120型(日立工機)
- [2] DNA/RNA抽出装置340A型 (Appl. Biosystem 社)
- [3] 高性能DNA/蛋白質自動電気泳動装置 HPEC 230A (同上)
- [4] DNAシンセサイザー サイクロンプラス (ミリゲン/バイオサーチ社)
- [5] DNAアンプリファイアー PJ1000型 (パーキンエルマー社)
- [6] 蛍光式DNAシーケンサー SQ300型 (日立製作所)
- [7] DNA回収用遠心機 CR15D (日立工機)
- [8] DNA測定用マイクロプレート蛍光分光光度計1230型 (ファルマシア)

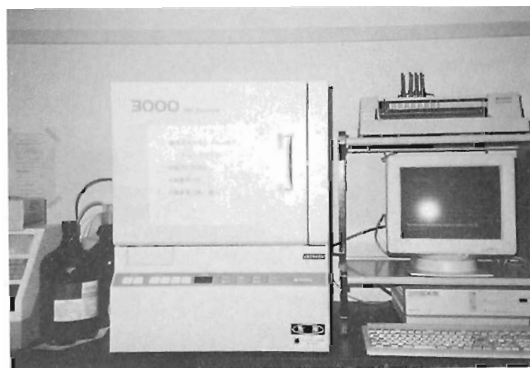
図2 遺伝子解析装置全景 (大学院演習室)

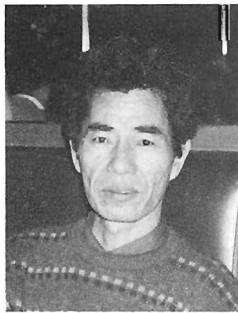


番号の機器名は図1と同じ。
No.4機はシーケンサーの裏側で見えない。

- 2. 生体材料の消化—抽出—相分離—アルコール沈殿が連続的、自動的に進行して核酸が抽出される。
- 3. 電気泳動により分離されたDNAや蛋白質の各ピークを自動的に分取出来る。
- 4. 100ベースぐらいのオリゴヌクレオチドは簡単に製造出来る。
- 5. ピコグラム量のDNA材料から、マイクログラム量のDNAが大量に増幅できる。
- 6. 400塩基を約4時間で解析できる。RIを使用しないので、操作が安全で容易である。シーケンサーデータをそのままDNASISに入れて塩基解析が可能
- 7. 核酸の遠心回収、濃縮など。
- 8. ユーロビウム色素を利用してELISA反応が出来る。また同試薬で細胞標識して細胞傷害活性の測定も可能。

図3 本システムの中で最も高価な蛍光式DNAシーケンサー





カナダ紀行

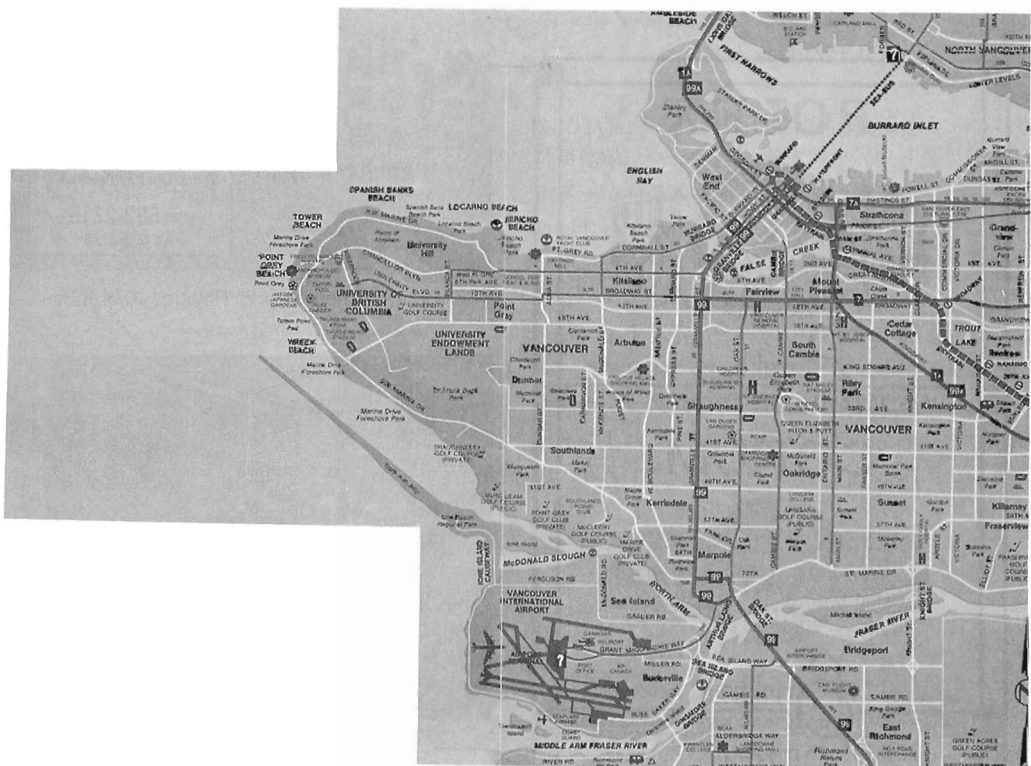
助教授 有本正生

私は、1989年1月より1年間、ビジティング・サイエンティスト (Visiting Scientist) として、カナダ国ブリティッシュ・コロンビア州にあるブリティッシュ・コロンビア大学 University of British Columbia (以下UBCと略す) の Chemistry に留学する機会を与えられました。ここに、家族と共に初めて過ごした海外での1年間を顧みて、ご紹介したいと思います。

カナダの西の玄関口バンクーバー

B・C州は、10の州と2つの準州から成るカナダの

最も西側に位置する人口約270万人の州であり、複雑なフィヨルドの海岸線を持ち、太平洋に面している。東側は南北にカナディアンロッキーが走るアルバータ州に接し、南には米国ワシントン州と国境を形成している。そのB・C州の南西の隅に、州最大の都市であり、トロント、モントリオールについてカナダ第3の都市として知られる経済と文化の町バンクーバーがあります。バンクーバー市は人口約50万人で、ジョージア海峡とバラード湾の間に突き出した小半島で、フレイザー川の河口に位置しており、最も大きな活気に満





リッチモンドのアパート



Prof. J. P. Kutney と共に

ちた港になっている。海岸線はフィヨルドの一部だし、対岸には州都ビクトリアを要するバンクーバー島が横たわっている。波静かな自然の良港の条件がそろっている。ここから船積みされるのは、内陸から運ばれてくる豊富な鉱物資源であり、運ばれて行く先は主として日本である。この様に書くと工業港のイメージがするけれども、港には多数のヨットが停泊するヨットハーバーもある。そしてイングリッシュ湾とバラード入江に挟まれた小さな半島は近代的高層ビルが建ち並ぶ経済の中心ダウンタウンである。ここは国際的な雰囲気が漂い、かつて裁判所であり、現在はアートギャラリーに変わっているどっしりした石造りの建物ロブソンスクエアを中心にロブソン通りに沿って、ロブソンストリッasetと呼ばれる洒落たショッピング街となっている。休日ともなれば、ヨーロッパ調のブティック、カフェ、レストラン、ギャラリー、宝石店……が軒を連ねるファッションな通りに、憩いの一時を家族づれが買物を楽しんでいます。特に若い人達の熱い視線を集めている所です。

ダウンタウンを少し離れるとバンクーバー発祥の地となったギヤスタウンがあり、赤レンガを敷きつめた街路や蒸気時計などがノスタルジックな雰囲気をかもしだし、19世紀の面影を今日に伝えている。さらに東南には、バンクーバーに住む約10万人の中国系カナダ人の生活を支えるチャイナタウンがひかえている。サンフランシスコに次ぐ北米第2の規模を誇り、北側の日本人街も含めて、エキゾチックな気持ちにさせてくれる。一見ただけではカナダの一部とは思えない。このような東洋系の移民が多いのは、太平洋沿岸のバンクーバーならではの特徴であろう。一流ホテルが林立するジョージア通りを東北に進むと、樹齢千年の大樹が茂り、約千エーカーの広さを誇るスタンレー公園が緑の樹木に覆われ、市民の憩いの場所として、安らぎを与えている。この公園の最北端から、ライオンズ・ゲートブリッジを渡るとノースバンクーバーおよびウエストバンクーバーにでる。吊橋でしられるキャピジノキャニオン、リンキャニオン公園があり、冬にはスキー場として、賑わうシーモア、グラウスならびにサイプレス山がそびえ、市内とうって変わった緑深い



Chemistry と Physics の研究所



私の実験台

山岳地帯となり、山頂からの眺めは雄大で美しく、市内の街なみはもとより晴れた日にはアメリカまで望める。

ダウンタウンから主要道路のグランビル通りを南にくぐると、グランビル橋の下にヨットマンの集まるグランビル・アイランドがあり、ハブリックマーケットでは安く、新鮮な食べ物を求めて、買い出しの人々で活気を呈している。さらに進むと、英国風の建築様式のたたずまいを忍ばせる住宅街の中に、クイーンエリザベス公園、バンデュースン植物園など、百以上の公園が点在し緑と親しめ、どこかのどかな気分させてくれる魅力がある。ノースアームフレイザー川を渡れば、私達が生活をしたリッチモンドである。東にはバーナビーとニューウエストミンスターがあり、これらを総称して大バンクーバー (Greater Vancouver) と呼んでいる。これにさらに近郊都市を加えて、バンクーバーのメトロポリタンエリアで人口約140万人に達する大都市圏を形成しているのである。

ブリティッシュ・コロンビア大学 (UBC)

バンクーバー市の西のはづれ、ジョージア海峡に面した所に、森と海に囲まれた千エーカー以上の広大な面積をもつキャンパスが広がる。UBCはChemistryと図書館を中心に、1915年創立の名門州立大学である。緑豊かな環境の中で、8学部、9研究所に約35000人の学生が学んでいる。敷地内には、警察をはじめ様々な施設が点在し、キャンパス内がひとつの町である。中でも印象に残るのが、ノースマリン道路ぞいに新渡



グランビルアイランドの大道芸人

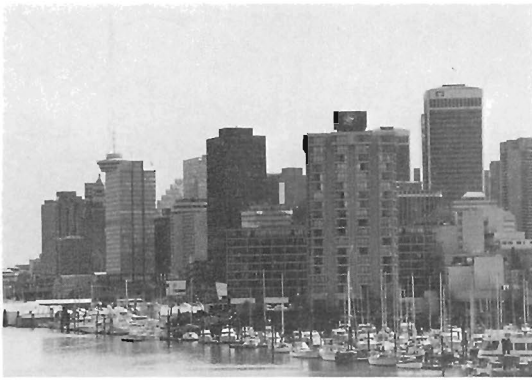


グランビル通りから見る町並



スタンレー公園のトーテムポール

戸稲造博士が国際会議の帰途、バンクーバーで客死したのを悼んで造園された新渡戸記念庭園である。茶室や池を配した純日本庭園が針葉樹の中にある。訪れる観光客にとっても人気が高い。またその近くのUBC人類学博物館はユニークな建築デザインと充実したコレクションを誇るバンクーバー屈指の博物館。高さ14mのガラスを用いて、光を室内いっぱいとり入れ、打ちっぱなしのコンクリートを組み合わせたモダンなデザインに圧倒される。展示場には、ノースウエスト・コーストに住む原住民の各インディアンが作った彫像、船、トーテムポール等が飾られ、おおきな彫刻ひとつひとつがダイナミックで、しかも芸術的かつ神秘的な雰囲気をもたえている。カナダインディアンの生活がそれらの文化と芸術性から堪能できる。



スタンレー公園から見たダウンタウン

1番ゲートから西方を見れば、大学の真中に位置する Chemistry と Physics の研究所が正面の視界に入ってくる。その研究所の手前のイーストモールには UBC へ通学してくる学生や市民の足となるバスループがあり、北側には青々とした芝生の中にクロックタワーが高くそびえるメインライブラリーがある。蔵書は1200万冊と言われ、どっしりとした重厚な建物で UBC の歴史を感じさせてくれる。南側にあるブックストアはカナダでも有数の規模を誇る書店である。デパートのようにゆったりとしており、UBC のロゴが入ったトレーナーやTシャツ、ノート等、いろんな物を買う事が出来る。

12月28日に、ヨーロッパ出張から帰ってこられた J.P. Kutney 教授にお会いし、これから始まる1年間

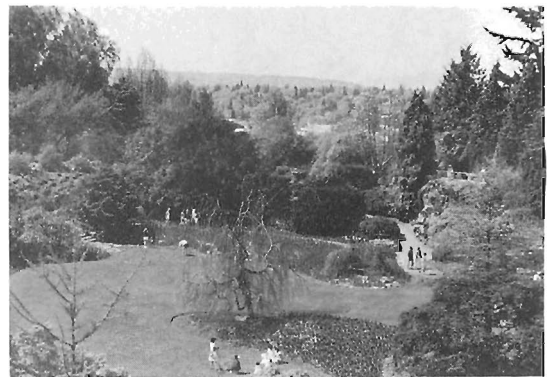
の研究内容の説明を2時間にわたり受けた後、会員制のファカルティークラブで歓待していただきました。研究所では、リサーチアドバイザーのポーランド人のクリスチーナ博士を筆頭に、大別して4プロジェクトが精力的に活動しております。いずれも有機合成と生合成を組み合わせ、医薬品とか生理活性のある天然物とかを収率よく合成しようとする試みである。研究員は博士、ポス・ドク、企業からの派遣員、技術員および博士課程、修士課程の学生で構成される総勢28名の大所帯であり、世界中の人種が集まり、国際色豊かです。中でも東洋系の人々が最も多く、10人前後を占めておりますので、何か日本の大学にいる様な錯覚さえ致しました。丁度、私が滞在しておりました時は、旧館の棟続きに学舎が新築され完成間近で、当初の予定では4月頃に移れるというお話でしたが、延々と伸び8月末にやっと新研究室に入ることができました。大陸的といましょうか、何かにつけのんびりとしていゝ国民気質にはあきれられるばかりです。新研究室は厳しく安全に気を使い、便利に設計されておりました。このようなホテルみたいな部屋で運よく実験ができた事は幸運でありました。しかし用います器具はいうにおよばず、測定機器についても、骨董品のな代物ばかりで、我が薬大の設備の良さに感心しておりました。Chemistry の建物の中にメカニカルショップがあり、スタッフとして専門技術員が常時勤務しておりますので、故障すれば直し、破損すれば修理するという訳であります。それだけ堅実にやっているということでしょうか。

日常生活

1988年12月21日に、山口先生はじめ多勢の学生達に見送られて、大阪国際空港を出発し、異国へのはじめての旅となりましたが、不安と期待とが交差する中で、



ギャスタウンの蒸気時計



4月のクィーンエリザベス公園

21日午前8時雲海の上、金色に輝く朝日に酔いしれながら、バンクーバー国際空港に到着したのだった。だが空港はどんより曇り、雨が降っておりました。到着以後、ひと月の間に太陽を見たのはたったの2日間だけであった。話しには聞いていたが、何と雨の多い所ではないか。例年冬は月の半分以上は、雨が降るそうである。

アパートは、空港まで迎えに来ていただいた中田氏と岡田氏に案内してもらい、捜し回りましたが家賃の高い(2ベッドルームでC\$750~850)のには驚きました。これも香港資本の流入の弊害でしょうか。しかし、買物の便利さおよび公共施設の近くということ、さらにせっかく来たのだから、少しゆったりと生活してみようと考え、リッチモンドにアパート(C\$800)を借りることにした。支配人と契約する時に、思いがけず坂田氏をご存じですかと聞かれた。奇しくも私がたまたま日本で知り合いになり、カナダの情報を教えていただいた人であった。偶然にもその人が住んでおられた同じ部屋に住むことになったのである。

年が明け歴史に残る平成元年1月8日、15年ぶりの



同じ研究室仲間のハイジのお宅



神秘的で美しいレイク・ルィーズ



カナダを誇るタカカウ滝

大雪が降り、積雪30cmの銀世界に家族を乗せた飛行機が到着した。乗客達が迎えの人達と談笑しながら立ち去った後、静寂を取り戻した出口には妻と子供達はまだ出てこない。無事に来ただろうか、だんだん不安になりはじめた1時間半後、たくさんの荷物に埋もれながら笑顔で元気な姿が現われ、ほっとしました。移民局の手続きに問題があったようである。

いよいよカナダでの生活が始まった。子供達の現地校の件、日本語補習校の事、あるいは生活必需品を買い揃える為、愛車のボンコツ車シボレーで奔走し、アッという間に1ヶ月が過ぎてしまった。今年の冬は異常気象だったみたいで、雪が降ってみたり、氷点下-12度の気温が続いたりもしました。緯度49度ですのであたりまえのように思っておりましたが、カナダの人達もビックリしておりました。

カナダは完全に週休2日制ですので、金曜日まで息子は自転車で2ブロック程離れたジュニアセコンダリースクールへ、娘はアパートの隣にあるエレメンタリースクールへ(9月から兄と同じスクール)通います。二人共英語が理解できないので English Secondary Language (ESL) のクラスに編入され、まず英語をマスターしなければなりません。いやにならないだろうかと心配しましたが、子供の順応性の早さを武器にすぐ慣れたみたいです。子供の能力に合った教育方針が気に入ったみたいで、1日も休まず楽しんでいました。また、土曜日には日本語補習校で、日本の勉強をする訳です。子供達を送り出した後、妻は私をUBCまで



レイク・ルィーズの上にあるレイク・アグネス

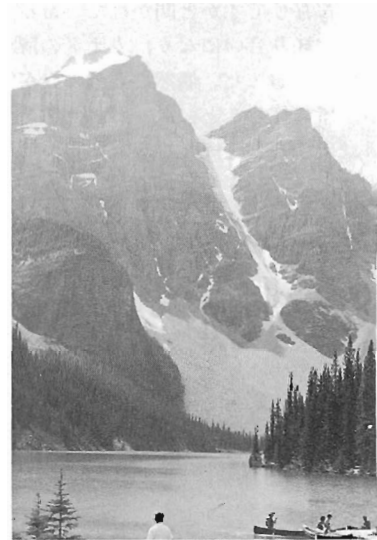
送り迎えをしてくれます。その合間に教育委員会の主催するESLで英会話を学んだり買物したり、友達になった日本人の方とお話したりして、1日を忙しく過ごします。日曜日には遠出をしたり、スーパーへ買い出しに行ったりしますが、行く先々でカナダに入りましたかと声をかけてくれます。特に「ありがとう」「どういたしまして」という言葉に、人に対する思いやりと優しさを感じずにはいられませんでした。

4月になりますと、急に暖かくなり紅葉の季節に落葉した樹木や草花がドッと芽を吹きはじめ、町の景色が一変し美しい国が現われてきました。折しもUBCでは定期試験が終わり、9月まで4ヶ月に渡る夏季休暇に入ります。休暇中も、夏季講座が開かれ、日本の若者達も多数英語研修に参加しているみたいで、よく見かけるようになります。調子の良くなかった愛車がアップダウンの激しい道路を走り過ぎ、とうとう動かなくなりました。それで残りの期間をリースで車を借りることに致しました。この頃になりますと太陽の紫外線も強くなり、公園の芝生で読書をしながら裸で日光浴をしている光景をよく見かけます。日没も日に遅くなり、夜10時頃まで明るい、乾燥していてスカッとさわやかな盛夏を迎えます。

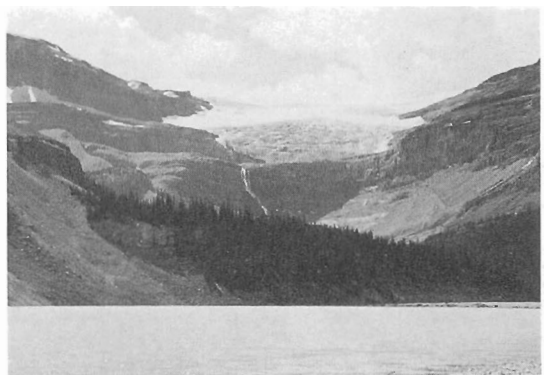
ロッキーへの旅

教授にお願いし、気候のもっとも良くなる8月に休暇をいただき、一番楽しみにしていた憧れのカナディアンロッキーへの旅へと出発したのであった。VIA

鉄道とか、空路でカルガリーへ出るとかいう行き方がありますが、私達は出来るだけ多くの場所へ行きたいという願望を持っておりましたので、車で行くことにしました。一路バンクーバーの町中を抜け、大陸横断道路のルート1号でホープまで、澄切った空気の田園風景を車窓ごしに眺めながら、真っ直ぐ数キロ続く快適なドライブで最高の気分が味わえます。ホープよりカナダで唯一の有料のハイウェイルート5号を北上、なだらかな山並み、広々とした牧場、ただ曇り空が残念である。素朴な町メリットで昼食をすませ、カムループスへ向かう。このような田舎町にくと、北米大陸の開拓時代にタイムスリップしたような気がします。カムループスで再びルート1号に合流し、レブルストークを第1日目の宿泊場所とした。通り過ぎて来た町



雄大な山が迫るモレーン湖



ボウレイクに押しよせる氷河



パークウェイから見たロッキーの山

々はそれぞれ周辺の観光地の拠点として位置し、色々楽しめる所があります。曇り空の朝、マウントレブルストックに登ったが、霧に遮られ景色を見ることが出来なかった。更に東へしばらく山間の道を進むと、山の感じが少し異なり始める。樹木がなく、堆積層の岩盤が急に隆起したような異様な山である。標高1300mのロジャーパスはグレイシャー国立公園の中心地である。回りの眼前に迫ってる3000m以上の山々、太古の昔より培われて来た氷河が崩れ落ちそうに息づいている。ゴールデンを過ぎると、いよいよヨーホー国立公園に入る。

車で国立公園に入る場合に支払う入場料C\$6（4日間）をパークゲートで支払い、通行券をフロントガラスに貼りつける。キッキングホース川沿いに浸蝕により作られたナチュールブリッジを過ぎると、背後にそびえる雄大な山々が鏡のような湖面に姿を映す、エメラルドグリーンの神秘的なエメラルドレイクに到着。壮麗な湖畔の針葉樹林は、はかりしれない静けさの中で息づいている。再びハイウェイに戻り、険しいヨー



コロンビア大氷原の全景



アイスフィールドの上のスノーモービル

ホー川を登って行くとタカカウ滝が見えてくる。森林の中に隠されたカナダで1番の落差(400m)を誇る滝。躍動的な水の動きが面白い、ダイナミックで美しい滝である。急勾配の山を登る為に設計された螺旋状のスパイラルトンネルを眺めながら、大陸分水嶺キッキングホースパスを越えるとアルバータ州に入る。レイクルイーズジャンクションを通り過ぎ、早い目に宿を確保し、バンフの町を散策することにした。世界中の人達がおしよせ賑わっている。日本人も多くみかけ、土産物店には日本語の案内も出ている。公共トイレに日本語で公衆便所と標識されているのには驚きでした。ロッキーの観光の起点となるバンフはカスケード山、ランドル山、サルファー山、ノーケイ山といった山々の懷に抱かれた小さい町である。この町のシンボルは映画「帰らざる河」のロケ地となったボウ川の辺にたつ、古城のようなバンフスプリングホテルである。ボウ川を左手にバンフとジャスパーを結ぶルート93号、別名アイスフィールドパークウェイを進めば、やがてモレーン湖、レイクルイーズ、ヘクター湖、ボウ湖と、何ともいわれぬ美しさをたたえた青緑色の湖が見えてくる。とりわけ、暗緑色の針葉樹に抱かれて、ゆったり広がるレイクルイーズと、氷雪が輝くビクトリア山から流れ落ちる氷河は最大の見所である。パークウェイを更に北へ進むと、垂直の岩壁が現われ、高所の雪が溶けていくすじもの流れになってハイウェイにしたたりおちる。Weeping Wallと呼ばれる涙の壁である。ハイウェイがうねるように続き、峠を上がって行く急カーブはビッグベントと呼ばれる名所で、ジャスパー国立公園の入口、サンワフタパスに通づる。峠を下だるとまもなく赤い屋根のシャレーが見え、生きた氷河コロンビア大氷原にたどりつく。北極圏外としては北半球最大の氷塊で、大陸分水嶺であり、さらにスリー



静かなジャスパーの町



消える湖といわれるメディスン・レイク

オーシャンポイント、つまり太平洋、大西洋、北極海に注ぐ唯一の地点でもある。スノーモービルに乗り、氷河を歩いてみる。年々、少しづつ後退していると言われる氷河の上に立つと、生きている地球を実感せずにはいられない。サンワブタ川沿いに車をとばすと、牧歌的な雰囲気漂う、未だ開拓時代であるかのような、大自然の入口、ジャスパーの町に至る。町を少しはずれただけで、原生林の中に迷い込む。ウィスラー山、ピラミッド湖、エディスキャベル山、エディス湖、消える湖と呼ばれるメディスンレイク、湖の真中にスプリットアイランドが浮かぶ美しいマリンレイクを巡る。同じ湖も微妙に色や質感が異なり、自然の表情の豊かさに思わず溜息がもれる。特に印象に残ったのは、地層の縞模様が美しいエディスキャベルである。北壁を仰ぎ見る。そそり立つ絶壁と氷、岩肌、右方向に目を移すと、山間から押し出るように落下する氷河はエンゼルグレイシャーである。天使が翼を広げた姿に似ているところから、その名がついたという。

ロッキーの旅で、もう一つの魅力は自然の中での、野生動物との出会いである。野生の動物は、なかなか

見られないということが野生の証しなのである。私達は幸運にもたくさんの動物にめぐり会えた。山の斜面で蜂蜜を捜すクロクマやグリズリー、その大きさに圧倒されるエルク、2頭なかよく新芽をついばむワピチ、岩場をかけめぐるビッグホーンシープ、車にはねられたのであろうか無残な姿で横たわるミュールジカ、その死がいを狙って現われるコヨーテ……。このように大自然の中で身をもって体験できたことは何事にも代え難い。

豊かな自然に囲まれたカナダの中で、ロッキーほど自然の雄大さ、厳しさを感じさせてくれる所はない。氷と雪で覆われた岩肌、切り立った崖、山々の麓には澄んだ川が流れ、周辺には宝石のような湖を創造している。岩壁のようにそそり立つロッキーの山々は荘厳で、心の中に深い感銘を与えてくれました。忘れることのできない旅となり、去り難き心を残し、走破距離5000kmに達する長旅を終えたのだった。カナダの魅力は？と聞かれても、語りつくそうとしてもいつまでも言葉が出てこない。ロッキーの大自然のエネルギーにかき消されてしまうのであろう。赤毛のアンの言葉を借りるなら“気持ちのいい痛み”ということになる。

すべてを紹介できなかったロッキーの事、州都ビクトリアの事、山口先生御家族とのひと時等、まだまだ思い出がたくさんあるが、限られた紙面ですので省略させていただきます。

1年間という限られた期間ではありましたが、私だけでなく、妻や子供達にとっても一生忘れえぬ思い出となりました。故郷をもたない私達には、バンクーバーが第2の故郷のようで、いつかまたこの地をもう一度訪れたいと思います。

最後になりましたが、このような素晴らしい機会を与えていただいた藤田榮一学長並びに山口秀夫教授を初め、諸先生方、職員の皆様に、心より厚くお礼申し上げます。留学で得られた貴重な体験を、学生諸君に還元できるように、努力したいと思います。



野生動物との出会いエルク

学生部だより

自動車通学の自肅について

本学では学生の自動車通学は原則として禁止しています。これは将来有望な学生諸君が交通事故死などの不幸な出来事に巻き込まれることを、未然に防ぐことに配慮したものです。しかし残念なことに、最近本学周辺路上や空地には学生の迷惑駐車が目立ち、これは交通渋滞はもちろんのこと、人身事故や消防救助活動の障害となる恐れがあります。迷惑駐車の事例としては、本学近くの河合小学校の正門入口に駐車したまま放置し、給食車が校内へ乗り入れできず引き返すという騒動が、昭和63年9月、平成元年1月の2回発生しました。

地域社会・住民との共存共栄を図ることがますます大切な現在、学生諸君には多少の不便に堪えて、自動車通学をしないように理解と協力をお願いします。

アルバイトについて

本学では教育的観点から、アルバイトの職種を主として家庭教師と病医院薬局の受け付けに限定して斡旋していますので活用して下さい。万一求人先で賃金不払い等のトラブルに巻き込まれた場合は、速やかに学生課へ連絡して下さい。

(参考) 大阪学生相談所家庭教師標準月謝

(平成元年4月1日現在)

回数 対象	週1回	週2回	週3回	週4回以上
小1～ 中2生	17,000 円	28,000 円	39,000 円	1回増につき 14,000円
中3～ 高2生	20,000 円	32,000 円	44,000 円	
高3 大学 受験生	23,000 円	36,000 円	49,000 円	

(注) 1回につき2時間の勉強時間とする。

呼出しについて

ご父兄等から学生の呼出し依頼の電話がよくあります。しかし広い大学構内での皆さんの居場所の把握は困難であり、探す手間も人手もありませんので、呼出し(学内放送を含む)は、死亡・危篤・交通事故等、緊急事態発生時以外は取り扱っていません。

また外部団体からの学生個人情報(身上・成績等)の照会については、プライバシー保護の観点から、一切応じておりません。

掲示について

学生諸君への連絡はすべて掲示で行いますので、少なくとも1日3回(登校・昼休み・下校時)は、必ず掲示板を見るようにして下さい。期限を設定した掲示には特に注意し、見なかったことによる不利益はすべて自分自身にはね返ることを承知しておいて下さい。(参考) 学内規程 第6章 告示

第14条 本学が定めた場所に掲示した告示等は、一般に承知したものとみなす。

教務部だより

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。皆様のご入学を心から歓迎いたします。

告しかった受験勉強もおわり、ほっとしている人、いまだ割切れない想いでいる人、いろいろあると思いますが、早く頭を切り替えて、今度は大学の勉強に全力を傾注して頂きたいと思います。

大学での4年間は君達の将来を大きく左右するものであり、将来をすばらしい人生にするか否かは君達自身であります。言うまでもなく、薬学は人の健康と福祉に貢献することを目的としており、今後益々有為な人材を必要としています。健康に注意してどうか有意義な学生生活を送って下さい。

本学で勉強を始めるに当り、お願いしておきたいことがあります。

正門に入って左側および教務課前の掲示板は毎日必ず見て下さい。連絡事項、時間割変更等すべて掲示で行いますので注意して下さい。

学則、学科履修規程はよく理解しておいて下さい。その他解らないことがあればいつでも気軽に教務課へ来て下さい。

カリキュラムの一部改正について

この度カリキュラムの一部が改正され、平成2年4月1日から施行し、平成2年度入学者から適用することになりました。現2年次生以上には関係ありませんが、改正の概略について説明します。

- ・人文科学、社会科学の科目はこれまで選択科目で3年次まで開講していたが、これを選択必修科目とし、開講、履修年次を設定して2年次まで開講することにした。
- ・体育実技は2年間で2単位であったが、1年間で2単位に改めた。
- ・専門教育科目の必修は51単位を50単位に、実習は12科目を11科目に、関連科目は10単位を11単位(内必修5単位)に、卒業単位は135以上を134以上にそれぞれ改めた。
- ・再試験を廃止して、未修得科目は次年度以降に定期試験を再受験して単位を修得することにした。
- ・必修科目の単位未修得4科目以下で進級を5科目(但し、人文・社会の科目も含む)以下で進級に改めた。
- ・4年次への進級は、3年次までに一般教育、外国語、保健体育の全科目を修得していなければならないこととした。

頭痛



ストレスに満ちあふれた現代社会では、頭痛（頭の深部に感じる痛み）に悩みながら、不愉快な思いで日常生活を送っている人は案外多いのではないのでしょうか。

〔原因〕

- ① 大脳も小脳も痛みを感じる能力はない。脳膜炎やクモ膜下出血の時は、痛みに敏感な脳膜の一部が刺激されて頭痛を伴う。
- ② 脳腫瘍の時は三叉神経、舌咽神経、迷走神経の圧迫や伸長のため頭痛がおこる。
- ③ 風邪をひいたり、高熱の時の頭痛は脳底部の血管が拡張しておこる。

〔症状〕

★心配のいらない頭痛

- ① 慢性頭痛：一時的な脳血管のけいれんによる。
- ② 偏頭痛：女性に多い。頭の片側だけが痛み、吐き気や嘔吐を伴い、ズキンズキンと脈うつような痛みがある。一般的には緊張性、自己抑制的、神経質、完全主義、努力タイプの人などに多く性格との関連が強い。
- ③ 群発頭痛：比較的男性に多い。偏頭痛の一種で頭痛の他、痛む側の目や鼻の粘膜が充血して涙や鼻汁が数日繰り返して出る。
- ④ 筋収縮性頭痛：非発作性頭痛で締め付けられるように圧迫される深い痛みが長時間つづき、精神的ストレスの連続でおこる。
- ⑤ 後頭部痛：後頭部神経の炎症などの一時的な障害によりおこり、首や肩の方へ痛みは放散する。
- ⑥ その他：精神的な悩み事でおこる頭痛の他、視力低下、メガネの不適合、女性では月経や更年期障害の時の症状の1つとしておこる。

★疾病の症状としての頭痛

- ① 脳血管異常：脳動脈硬化症や高血圧の悪化、クモ膜下出血前後に激しい頭痛がおこる。
- ② 脳内の炎症：髄膜炎や側頭動脈炎のある時も頭痛がおこる。
- ③ 脳腫瘍：激しい頭痛がおこっては自然に治ることが繰り返しておこる。吐き気、視力障害、けいれん、運動麻痺などの症状もある。
- ④ 緑内障：頭痛、眼痛、眼圧亢進、吐き気を伴う。
- ⑤ うつ病：頭痛の他、家族とも話をせず、食事もなくなり、不眠を訴えることもある。

〔対症療法としての心構え〕

- ① 頭痛薬ばかりに頼らないでほしい。つまり鎮痛剤を服用して頭痛を治している人も多いが、副作用として胃腸をこわしたり、血液疾患を誘発することもあるので十分注意して下さい。
- ② （★心配のいらない頭痛）の場合は、各原因に正面から立ち向って受けて立つぐらいの強い意志と精神力をもってほしい。
- ③ 職場や家庭内での対人関係からくるテンション（緊張、不安）など精神的なストレスに対して自分に合った解消法を心がけてほしい。例えば軽くお酒を飲む、愚痴を言ったり聞いてもらったりして気分転換を図ることも効果的である。
- ④ 睡眠不足や不規則な生活なども頭痛の原因となるので、軽い運動を毎日の生活に適当に組み入れ、食住環境を整え、規則正しい日常生活ができるように心がけて下さい。
- ⑤ （★疾病の症状としての頭痛）の場合は、総合的な検査を受け、早期に原因を発見することが大切です。通常、人間ドックではCCT（頭部断層レントゲン撮影）や脳波の検査は実施しないようなので、専門医に相談し指導を受けた方がよいでしょう。



前回は主に傷害保険の概要について詳説しました。今回は保険の対象範囲について具体例を引用して、わかりやすく解説します。

I 正課中の事故

Q 1 学外における実習中（病院、衛研、臨検の各特別実習中）の事故も、対象になるか？

A 授業として行われる実習中であるならば、学内外を問わず対象となります。但し、「拘束時間」以外の私的活動中の事故は、対象とはなりません。

Q 2 研究に従事している間の事故証明の基準は何か？

A 指導教員が当該研究に通常必要と思われる活動中であったかどうかを判断して証明する。

Q 3 休み時間中の事故は？

A 一般的には学校施設内の事故として対象となります。但し、休み時間中の事故であっても正課と一体とみられる場合には正課中の事故として支払われます。

また、授業を受けた後、その授業に接続する授業を受けるため、キャンパス内を通常の経路および方法により移動中の場合も事実上正課と一体であるとみられるため、特に正課中の事故として対象となります。

II 課外活動中の事故

Q 1 練習場所に集合時間より早く着いたので準備運動を行っている間の事故は対象となるか？

A 場所的、時間的にも部活動と一体とみられる場合は対象となります。

Q 2 近所に住む同じ大学のテニス部員と市民テニス大会に出場した時の事故は？

A 市民として参加しており、大学のテニス部として参加しているのではないので対象なりません。

Q 3 試合終了後、反省会を行っている間の事故は？

A 団体としての活動であれば対象となります。懇親会やレクリエーション等、クラブとして団体活動を行っている間は対象となります。

次号は学校行事中、学校施設内にいる間の事故を例にとり解説の予定です。

前本学法人監事 岡本 彰氏 (S31年)

大阪府薬剤師会会長に就任さる



前本学法人監事、同窓会相談役である岡本 彰氏 (S31年卒・3年次生岡本禎晃君の父君) は永年大阪府薬剤師会の副会長として御活躍されておられますが、去る3月24日の大阪府薬代議員会において、前会長 吉矢 佑氏 (本学評議員) のあとをうけ、会長に就任されました。誠にめでたいことで御同慶の至りであります。心からお祝い申し上げますと共に氏の益々の御活躍と御健康をお祈り申し上げます。

薬大前通りの道路幅員拡張工事

高見の里駅前の国道「堺・大和高田線」から本学に通ずる。通称「薬大前通り」は左側に深い側溝があり、道路巾が狭いため屢々交通渋滞や事故の原因となっていた。この側溝を埋め立て道路巾を拡張することが、本学の多年の念願であったが、このたび松原市の環境整備計画の一環として取り上げられ、今春から側溝を埋め立て道路幅員の拡張工事が行われている。本学にとっても、学生諸君にとっても喜ばしいことである。



本学関係者の叙位叙勲

- 小村 俊夫 (前本学事務局長)
勲四等旭日小綬章 (平成元年4月29日付)
榎 健寿 (元本学学長)
勲三等瑞宝章 (平成2年4月29日付)
故森坂勝昭 (教授・法人理事)
従五位勲四等瑞宝章 (平成2年2月23日付)
吉矢 佑 (前大阪府薬剤師会長・本学法人評議員)
藍綬褒章 (平成2年4月27日付)

学位授与

- 医学博士 (平成元年12月13日)
第8910号 実験動物センター 安田正秀
腎症候性出血熱 (HFRS) 病因ウイルス汚染ラット腫瘍 (Malignant Fibrous Histiocytoma) よりの HFRS ウイルスの消去 (大阪大学より)
- 薬学博士 (平成2年3月23日)
論薬博第417号 化学 I 田中麗子
コニシキソウ (*Euphorbia supina* Rafin.) の含有成分に関する研究 (京都大学より)

- 薬学修士 (平成2年3月20日付各通)
修第102号 薬化学 河合健蔵
トドマツ心材のビスボラン型セスキテルペンに関する研究
- 修第103号 薬化学 森藤英昭
インドネシア産 *Melia dubia* の細胞毒性成分に関する研究
- 修第104号 薬品製造学 坂之上里美
アザビシクロチオノカーボネートのスピロラクトンへの変換反応, 及び含窒素・含硫黄チオノカーボネートの脱硫化カルボニル一環拡大反応
- 修第105号 衛生化学 島田秀治
ウサギ腎髄質ミクロソームのプロスタグランジン生合成に対するトリアシルグリセロールリパーゼの関与について
- 修第106号 生化学 今田基裕
ウシ臍臓由来ホスホリパーゼ A₂ のモノクローナル抗体の作製とその性質
- 修第107号 生化学 莫 尔品

- 第1部 ヒトデ (*Asterias amurensis*) 肝臓由来ホスホリパーゼ A の精製と基本的性質
- 第2部 インドクサリヘビ (*Vipera russelli russelli*) 毒由来の2種のホスホリパーゼ A₂ の全アミノ酸配列
- 修第108号 微生物学 宮本勝城
好アルカリ放射菌の産生するアルカリセリンプロテアーゼの精製およびその諸性質
- 修第109号 微生物学 坂本隆志
好アルカリ放射菌の産生するキシリナーゼの精製およびその諸性質
- 修第110号 薬理学 山口 博
パソプレシンの鼻粘膜吸収に及ぼす低粘性ヒアルロン酸 Na 溶液及び蛋白分解酵素阻害剤の影響に関する研究
- 修第111号 薬理学 森 一孝
イヌ腎機能におよぼすカリウムチャンネル活性化薬 B R L34915 (Cromakalim) の影響
- 修第112号 薬理学 竹信敬史
ソット尿不活性型カリクレインの活性化機構に関する研究
- 修第113号 薬品分析学 加藤圭司
金属イオンの接触的作用を利用する分析法について
- 修第114号 薬品分析学 佐藤卓史
ヒト気管支肺胞洗浄液中の液性成分の分析に関する研究
- 修第115号 薬品物理化学 松本慶太
Papain-E64c 相互作用様式に関する構造化学的研究

卒業式

3月20日(火)第37回学部卒業式並びに第14回大学院修了式(学部222名, 大学院修了生14名)が来賓, 父兄参列のもとに挙行された。



法人新評議員決定

平成2年4月の理事会において、法人新評議員が次の通り決定した。任期は平成2年5月11日より3年間。

安部 和寿	小澤 貢	松村喜久子
石黒 武雄	澤木 茂	水川 孝
石本 巖	曾根 節子	森 逸男
今中 宏	田中 千秋	森本 史郎
植松 治雄	田村 栄子	山田 茂樹
大村栄之助	永田 亘	矢内原千鶴子
岡本 道雄	沼田 敦	吉矢 佑
奥野 喜一	藤田 栄一	(50音順)
小原 義行	藤原 富男	

人 事 異 動

事務職員発令 (平成元年12月20日)

松井小百合 (経理課・新採用)

退 職 (平成元年12月31日)

福井 敦 (学生課・事務職員)

井本 貴巳 (経理課・事務職員)

仲治多佳子 (庶務課・事務職員)

就職部長発令 (平成2年4月1日)

森 逸男 (教授)

図書館長発令 (平成2年4月1日)

保坂 康弘 (教授)

寮監発令 (平成2年4月1日)

望月伸三郎 (教授)

研究委員長発令 (平成2年4月1日)

稲森 善彦 (教授)

実験動物センター所長発令 (平成2年4月1日)

玄番 宗一 (教授)

学生部長事務取扱発令 (平成2年4月1日)

望月伸三郎 (教授)

教授発令 (平成2年4月1日)

坂田 勝治 (外国語科目)

千熊 正彦 (第一分析化学教室)

草野源次郎 (第一生薬学教室・新採用)

助教授発令 (平成2年4月1日)

濱中久美子 (外国語科目)

三谷 佐孝 (数学・新採用)

講師発令 (平成2年4月1日)

上井 光暢 (第一物理化学教室)

助手発令 (平成2年4月1日)

亀山 悦子 (第二薬理学教室)

後藤亜也子 (第二衛生化学教室)

堤 あゆみ (第一薬剤学教室)

宮本多美江 (第一薬化学教室)

森本 純子 (第二放射薬品学教室)

山本英倫子 (第二生化学教室)

河鱈 一彦 (保健体育・新採用)

高岡 義和 (化学Ⅱ教室・新採用)

宮本 勝城 (第一微生物学教室・新採用)

米花 務 (第二薬理学教室・新採用)

助手発令 (平成2年4月1日)

阿部 真弓 (第一生薬学教室・新採用)

近藤由貴代 (第二薬化学教室・新採用)

梅井麻里子 (第一物理化学教室・新採用)

豊元 操 (第二生化学教室・新採用)

宮原 直子 (第一放射薬品学教室・新採用)

福井美有紀 (第一薬剤学教室・新採用)

係長発令 (平成2年4月1日)

松尾 真充 (教務課)

藤田 純生 (庶務課)

主任発令 (平成2年4月1日)

福永 治久 (施設課)

事務職員発令 (平成2年4月1日)

堀 勝美 (学生課・新採用)

田口 愛子 (教務課・新採用)

塚田ひろみ (庶務課・新採用)

技能職員発令 (平成2年4月1日)

青木 由美 (庶務課・新採用)

嘱託発令 (平成2年4月1日)

山口 秀夫 (教授)

酒井 清 (教授)

堀田 輝明 (教授)

福井 淳造 (教授)

水谷 泰久 (教授)

吉野 幸夫 (事務局長)

杉田 勝美 (資料室長)

退 任 (平成2年3月31日)

沼田 敦教授・就職部長

(任期満了につき)

森本 史郎教授・図書館長

(任期満了につき)

碓井 信二教授・寮監
 (任期满了につき)
 池田 潔教授・研究委員長
 (任期满了につき)
 森下 利明教授・学生部長
 (願により)

退職 (平成2年3月31日)

山口 秀夫教授 (第二薬化学教室)
 酒井 清教授 (第一薬剂学教室)
 井川 智恵助手 (第一薬剂学教室)
 春日井容子助手 (第一放射薬品学教室)
 熊本 和正助手 (保健体育)
 熊本 知子助手 (第二生化学教室)
 田之口真理子助手 (第二薬化学教室)
 吉野 幸夫 (事務局長)
 手島ゆかり (庶務課・事務職員)

解 嘱 (平成2年3月31日)

吉田 嶺吉教授 (数 学)

訃 報

本学初代学長松野俊雄先生御逝去



松野俊雄先生は昭和23年9月から40年4月まで有機薬品製造学担当教授として本学で教鞭をとられ、その間昭和25年4月から27年3月まで初代学長を務められました。本学を退職されてからは昭和43年から52年まで第一薬科大学長を務められました。その後豊中市に居住しておりましたが、今年2月21日享年86才で逝去されました。24日に葬儀・告別式が行われました。本学から藤田学長、曾根同窓会長を始め多くの卒業生が参列し、先生の御冥福をお祈りしました。

平成2年度 前期行事予定

[1990]

- 4月2日(月) 第75回薬剤師国家試験
 }
 3日(火)
 9日(月) 入学式 (学部, 大学院)
 10日(火) 新入生ガイダンス, アドバイザー面談
 11日(水) 新入生健康診断, R I 採血
 12日(木) 前期授業開始
 16日(月) レントゲン検診 (新入生以外の学生, 教職員の女子)
 17日(火) レントゲン検診 (同上の男子)
 28日(土) 新入生奨学金ガイダンス
 5月9日(水) 創立記念日 (休業)
 10日(木) 健康診断 (新入生以外の学生の女子)
 11日(金) 健康診断 (同上の男子)
 12日(土) 新入生歓迎会 (五月祭)
 7月14日(土) 前期授業終了
 16日(月) 夏季休業
 }
 9月12日(水)
 13日(木) 前期定期試験 (1~4年次生)
 }
 29日(土)

特別講演会

V 平成2年—その1

V—1

演題: Multiwavelength Anomalous Dispersion and the Structure of Streptavidin

演者: Dr. A. Pähler
 Protein Engineering Research Institute

日時: 平成2年3月29日 (木) 13:30~14:30

場所: 大阪薬科大学 小会議室

主催: 大阪薬科大学

V—2

演題: The Synthesis of Novel Dienes Suitable for the Application in Tandem-Reactions

演者: Dr. R. Neier
 University of Fribourg
 Switzerland

日時: 平成2年3月29日 (木) 15:00~16:00

場所: 大阪薬科大学 小会議室

主催: 大阪薬科大学

平成2年度

各部・各委員会・委員一覧

◎は各部署の長
(平成2年5月現在)

教務部 ◎栗原 拓史(教授)
中元 安雄(助教授) 木村捷二郎(助教授)

学生部 ◎望月伸三郎(教授)
松村 瑛子(助教授) 辻坊 裕(講師)

就職部 ◎森 逸男(教授)
赤木 昌夫(助教授) 松村 瑛子(助教授)

図書館 ◎保坂 康弘(教授)
石田 寿昌(教授) 坂田 勝治(教授)

学生寮 ◎望月伸三郎(教授)
坂田 勝治(教授) 馬場きみ江(助教授)

藤本 陽子(講師)

薬用植物園 ◎小澤 貢(教授)
草野源次郎(教授) 馬場きみ江(助教授)

実験動物センター ◎玄番 宗一(教授)
酒井 清(教授) 森本 史郎(教授)

藤田 直(教授) 池田 潔(教授)

保坂 康弘(教授) 稲森 善彦(教授)

安田 正秀(講師)

総務委員会 ◎藤田 榮一(学長)
森本 史郎(教授) 田中 千秋(教授)

森 逸男(教授) 沼田 敦(教授)

小澤 貢(教授) 栗原 拓史(教授)

坂田 勝治(教授) 保坂 康弘(教授)

吉野 幸夫(事務局長)

施設委員会 ◎藤田 榮一(学長)
井上 正敏(教授) 森本 史郎(教授)

田中 千秋(教授) 森 逸男(教授)

沼田 敦(教授) 小澤 貢(教授)

稲森 善彦(教授) 石田 寿昌(教授)

曾根 節子(助教授) 吉野 幸夫(事務局長)

研究委員会 ◎稲森 善彦(教授)
馬場きみ江(助教授) 黒田 和道(講師)

広報委員会 ◎保坂 康弘(教授)
木村捷二郎(助教授) 松村 瑛子(助教授)

森本 武司(庶務課長) 杉田 勝美(資料室長)

大学史資料委員会 ◎曾根 節子(助教授)
森下 利明(教授) 加藤 義春(助教授)

馬場きみ江(助教授) 吉野 幸夫(事務局長)

森本 武司(庶務課長) 杉田 勝美(資料室長)

公開教育講座委員会 ◎藤田 榮一(学長)
保坂 康弘(教授) 玄番 宗一(教授)

稲森 善彦(教授)

R I 運営委員会 ◎田中 千秋(教授)
酒井 清(教授) 井上 正敏(教授)

森本 史郎(教授) 沼田 敦(教授)

保坂 康弘(教授) 玄番 宗一(教授)

稲森 善彦(教授) 千熊 正彦(教授)

草野源次郎(教授) 木村捷二郎(助教授)

森本 一洋(助教授)

排水処理委員会 ◎田中 千秋(教授)
山口 秀夫(教授) 松村 瑛子(助教授)

森本 一洋(助教授)

動物実験委員会 ◎玄番 宗一(教授)
酒井 清(教授) 森本 史郎(教授)

藤田 直(教授) 池田 潔(教授)

保坂 康弘(教授) 稲森 善彦(教授)

松村 瑛子(助教授) 森本 一洋(助教授)

安田 正秀(講師) 森本 武司(庶務課長)

組換えDNA実験安全委員会 ◎保坂 康弘(教授)
堀田 輝明(教授) 森本 史郎(教授)

田中 千秋(教授) 池田 潔(教授)

稲森 善彦(教授) 石田 寿昌(教授)

黒田 和道(講師) 森本 武司(庶務課長)

教育検討委員会 ◎森本 史郎(教授)
田中 千秋(教授) 沼田 敦(教授)

小澤 貢(教授) 藤田 直(教授)

栗原 拓史(教授) 池田 潔(教授)

石田 寿昌(教授) 坂田 勝治(教授)

医療薬学実習担当委員会 ◎酒井 清(教授)
千熊 正彦(教授) 中元 安雄(助教授)

木村捷二郎(助教授) 森本 一洋(助教授)

西野 隆雄(講師)

バイオハザード予防委員会 ◎稲森 善彦(教授)
田中 千秋(教授) 池田 潔(教授)

保坂 康弘(教授) 木村捷二郎(助教授)

松村 瑛子(助教授) 安田 正秀(講師)



入学式

4月9日(月)平成2年度学部並びに大学院入学式(学部入学生291名, 大学院博士前期課程19名)が来賓, 父兄参列のもとに挙行された。



国家試験の結果について

本年度春に施行された薬剤師国家試験の成績は次の通りであった。

◎薬剤師国家試験

第75回(平成2.4.2~4.3施行, 4.27発表)

受験者	合格者	合格率	全国平均
249名 (221名)	215名 (198名)	86.35% (89.59%)	85.26% (89.46%)

※括弧内は, 新卒者(平成2年3月卒業)の数値を示す。参考として過去5年間の春の薬剤師国家試験の成績を記載した。

薬剤師国家試験合格状況(春・過去5年)

年(回)	総合(%)	新卒(%)	その他(%)
昭和61(70)	67.87	71.95	35.48
	64.86	69.85	31.52
昭和62(72)	91.51	96.50	46.88
	91.17	94.71	57.70
昭和63(73)	87.94	91.81	52.00
	86.65	89.72	51.19
平成元(74)	89.62	92.75	59.26
	85.40	89.72	55.60
平成2(75)	86.35	89.59	60.71
	86.65	90.62	59.32

※上段は本学, 下段は私立薬系大の平均の数値を示す。

奨学生状況(平成2年3月31日現在)

1. 日本育英会 (人)

	1年	2年	3年	4年	学部計	修士	博士	総計
第1種	17	23	29	33	102	8	2	112
第2種	26	24	27	21	98	—	—	98
計	43	47	56	54	200	8	2	210

(学部) (円/月)

		昭和59~61年度	昭和62~63年度	平成元年度以降
第1種	自宅通学	31,000	35,000	38,000
第2種	自宅外通学	41,000	45,000	48,000

(大学院) (円/月)

第1種	自宅・自宅外通学	修士課程	72,000
		博士課程	83,000

第1種	無利息貸与	卒業後長期 分割返還 (10~20年)
第2種	利息付貸与 (年利率3%)	

2. その他の育英会・奨学会

	1年	2年	3年	4年	院生	計	月額(円)	給・貸
本学父兄会奨学会	2		3	3	3	11	20,000	給
小野奨学会	1		1			2	20,000	給
佐藤奨学会				1		1	17,000	給
大東育英会		1				1	15,000	給
大阪府育英会	5	6	10	1		22	17,000~ 21,000	貸
東大阪市育英会			1	1		2	17,000	貸
岡山県育英会	1					1	35,000	貸
山口県奨学会	1			1		2	27,000~ 31,000	貸
計	10	7	15	7	3	42		

(注1) 給は給付で返還不要

(注2) 貸は貸与で卒業後長期分割返還

教員研究業績一覽 (1989年)

(1989.1.1~12.31)

1. 著書, 紀要, 総説, 解説等

著者	題目	書名または掲載誌(出版社)
藤田芳一	逆ミセルの分析化学への利用	ぶんせき 1989, 852
藤田榮一, 他	Chiral Induction Using Heterocycles	Advances in Heterocyclic Chemistry 45, 1 (1989)
藤田榮一	ジテルヘン	INTEGRATED ESSENTIALS “天然物化学”(改訂第3版) 115 (1989)
森本一洋, 森坂勝昭	経皮・経粘膜DDSの設計理論とその実際	日本臨牀 47, 1255 (1989)
森本一洋	ポリヘフタイトの経直腸・経粘膜デリバリー	生物薬劑学—最近の進歩 (1989) 22 薬業時報社
中元安雄	病院実習を実施して想うこと	日本薬劑学会会報 5, 4 (1989)
森本史郎, 高岡昌徳	ループ利尿薬とその作用機序	薬局 40, 2127 (1989)
森本史郎	利尿薬	医薬品の開発 第8巻 薬物の作用機構 (1989) 広川書店
中野さち子, 福石信之 玄番宗一	Glutathione Depletion in Rat Kidney Cortical Slices : Its Relation to Cisplatin-induced Lipid Peroxidation	Medical, Biochemical and Chemical Aspect of Free Radicals, Eds. by O. Hayaishi et al., 536, Elsevier Science Publishers (1989)
保坂康弘	Retrospect and Prospect of Electron Microscopy in Japan : Biology/Virology	J. Electron Microsc. 38, 147 (1989)
黒田和道, 他	Processing of the Hemagglutinin of Influenza Virus Expressed in Insect Cells by a Baculo Virus Vector	Invertebrate Cell System Application, (J. Mitsuhashi, Ed.), 212, CRC Press, Boca Raton, Fl. (1989)
熊本和正, 他	【資料】 X線 (Zero Radio graphy) 法により求めた脚の筋と骨の割合	日本体育大学紀要 18, 133 (1989)
田中千秋, 他	1. 原子核および放射能 6. 放射線生物学 7. 放射線管理と安全取扱い 8. 放射性同位体による診断と治療 放射性医薬品	最新放射化学及放射薬品学(1989) 広川書店
松永春洋, 他	薬品化学 改訂第五版	1989年3月31日発行, 南江堂

1. 著書, 紀要, 総説, 解説等

著者	題目	書名または掲載誌(出版社)
加藤義春 (訳者)	ヨーロッパに於ける国民国家の類型と現象形態 (翻訳) (Th. Schieder : Typologie und Erscheinungsformen des Nationalstaats in Europa)	ばいでいあ 13, 79 (1989)
濱中久美子 (訳者)	エフタの娘 (I) (翻訳) (Gertrud von le Fort : Die Tochter Jephthas)	ばいでいあ 13, 57 (1989)

2. 一般学術論文

著者	論文題目	掲載誌
石田寿昌, 大石宏文, 井上正敏, 他	Conformational Properties of U-thiacyclamide, a Strongly Cytotoxic Cyclic Peptide from a Marine Tunicate. Determined by ¹ H Nuclear Magnetic Resonance and Energy Minimization Calculations	J. Org. Chem. 54, 5337 (1989)
井上正敏, 石田寿昌, 他	Composite Constituents: Three Gammacer-16-ene Derivatives. Novel Triterpenoids Isolated from Roots of <i>Picris Hieracioides</i> subsp. <i>Japonica</i>	Tetrahedron Lett. 30, 4977 (1989)
山本大助, 松本慶太, 石田寿昌, 井上正敏, 他	Crystal Structures and Molecular Conformation of E-64, a Cysteine Protease Inhibitor	Chem. Pharm. Bull. 37, 2577 (1989)
土井光暢, 竹原 繁, 石田寿昌, 井上正敏	Effects of Thioamide Substitution for the Enkephalin Conformation : Crystal Structure of Boc-Tyr-Gly Gly·Pheψ [CSNH] Leu-OBzl	Int. J. Peptide Protein Res. 34, 369 (1989)
松本慶太, 山本大助, 大石宏文, 友尾幸司, 石田寿昌, 井上正敏, 他	Mode of Binding of E-64-c, a Potent Thiol Protease Inhibitor, to Papain as Determined by Y-Ray Crystal Analysis of the Complex	FEBS Lett. 245, 177 (1989)
石田寿昌, 土井光暢, 富田幸太郎, 林 宏樹, 井上正敏	Molecular and Crystal Structure of PQQ (Methoxatin), a Novel Coenzyme of Quinoproteins : Extensive Stacking Character and Metal Ion Interaction	J. Am. Chem. Soc. 111, 6822 (1989)
上田仁司, 瀬川かよ, 土井光暢, 井上正敏, 石田寿昌	Stacking Interactions between Protonated Nucleic Acid Bases and Aromatic Amino Acids : Spectroscopic and Structural Analyses of m ³ CMP-Tryptophan Derivative Complex	Nucleic Acid Res. 21, S-59 (1989)
石田寿昌, 土井光暢, 島本真理, 南野尚子, 野中建克, 井上正敏	Physicochemical Properties of Crystalline Forms of Ethynylestradiol Solvates : Comparison of Thermal Behavior with X-ray Crystal Structure	J. Pharm. Sci. 78, 274 (1989)
土井光暢, 石田寿昌, 井上正敏, 他	Physicochemical Properties of Dexamethasone Palmitate, a High Fatty Acid Ester of an Anti-inflammatory Drug : Polymorphism and Crystal Structure	J. Pharm. Sci. 78, 417 (1989)

著 者	論 文 題 目	掲 載 誌
石田寿昌, 大西与子, 上井光暢, 井上正敏	Proton Nuclear Magnetic Resonance Study on the Aromatic Amino Acid-Guanine Nucleotide System : Effect of Base Methylation on the Stacking Interaction with Tyrosine and Phenylalanine	Chem. Pharm. Bull. 37, 1(1989)
友尾幸司, 大石宏文, 石田寿昌, 井上正敏, 池田 潔, 他	Revised Amino Acid Sequence, Crystallization, and Preliminary X-ray Diffraction Analysis of Acidic Phospholipase A ₂ from the Venom of <i>Aglkistrodon halys blomhoffii</i>	J. Biol. Chem. 264, 3636 (1989)
石田寿昌, 尹 康子, 井上正敏, 植野容子, 田中千秋, 他	Structural Elucidation of Epalrestat (ONO-2235), a Potent Aldose Reductase Inhibitor and Isomerization of Its Double Bonds	Tetrahedron Lett. 30, 959 (1989)
大石宏文, 尹 康子, 石田寿昌, 井上正敏, 他	Structure of 5-Methoxy-2-[[[4-methoxy-3,5-dimethyl-2-pyridinyl) methyl] Sulfinyl]-1H-benzimidazole (Omeprazole)	Acta Crystallogr. C 45, 1921 (1989)
石田寿昌, 尹 康子, 上井光暢, 井上正敏	Structural Study Histamine H ₂ -Receptor Antagonists. Five 3-[2-(Diaminomethyleneamino)-4-thiazolylmethylthio]propionamide and -amide Derivatives	Acta Crystallogr. B 45, 505 (1989)
井上正敏, 石田寿昌, 他	The Specific Guanine Binding Site of the Ribonuclease T ₁ Family Enzymes and of G-Proteins Is Modeled in the Cocrystal Formed by 7-Methylguanosine-5'-Phosphate and Phenylalanine	J. Biochem. (Tokyo), 106, 189 (1989)
石田寿昌, 他	X Ray Diffraction Patterns and Crystal Structures of Riboflavin Tetrabutryate	Chem. Pharm. Bull. 37, 2273 (1989)
大石宏文	Polyamine Interaction with Z-DNA	J. Mol. Graphics 7, 71 (1989)
大石宏文, 他	ナギ (<i>Podocarpus nagi</i>) の水溶性成分	第 18 回有機合成化学協会関東支部シンポジウム(新潟シンポジウム)講演要旨集 40 (1989)
森 逸男, 藤田芳一, 生田絹子, 北野尚子, 川辺博司, 中橋義弘, 加藤圭司, 稲森善彦	Determination of β Lactam Antibiotics in Water by Fluorescence Quenching of Mercurochrome, and Application for Simple Investigation of Potency	Chem. Pharm. Bull. 37, 1827 (1989)
森 逸男, 藤田芳一, 生田絹子, 中橋義弘, 松尾理枝, 加藤圭司	Fluorescence Reaction between o-Hydroxyhydroquinone-phthalein and Vanadium in Micellar Media, and its Application	Fresenius' Z. Anal. Chem. 333, 42 (1989)
森 逸男, 藤田芳一, 生田絹子, 中橋義弘, 加藤圭司, 丹羽規子	Fluorometric Determination of Iron(III) with o-Hydroxyhydroquinonephthalein in the Presence of Brij 58	Anal. Lett. 22, 1969 (1989)
森 逸男, 藤田芳一, 生田絹子, 中橋義弘, 垣見規子, 加藤圭司	Fluorometric Determination of Uranium and Tungsten with o-Hydroxyhydroquinonephthalein in the Presence of Non-ionic Surfactant	Talanta 36, 688 (1989)

著 者	論 文 題 目	掲 載 誌
藤田芳一, 森 逸男, 生田絹子, 中橋義弘, 加藤圭司, 中西豊文	Highly Sensitive Spectrophotometric Determination of Human Serum Albumin with 3', 4', 5', 6'-Tetrachlorogallein Molybdenum(VI) Complex	Chem. Pharm. Bull. 37, 2452 (1989)
森 逸男, 藤田芳一, 生田絹子, 中橋義弘, 加藤圭司	Highly sensitive and selective fluorimetric methods for the determination of iron(III) and manganese(II) using fluorescein/hydrogen peroxide/triethylenetetramine and fluorescein/hydrogen peroxide/triethylenetetramine/tiron, respectively	Fresenius' Z. Anal. Chem. 334, 252 (1989)
森 逸男, 藤田芳一, 生田絹子, 中橋義弘, 加藤圭司, 田村京子, 大路雅樹	Kinetic and catalytic-spectrophotometric determination of iron by pyrogallolphthalein and potassium perdisulphate in non-ionic surfactant micellar medium	Fresenius' Z. Anal. Chem. 334, 49 (1989)
森 逸男, 藤田芳一, 中橋義弘, 生田絹子, 加藤圭司	Selective Fluorimetric Determination of Trace Amounts of Cobalt(II) with the System of Fluorescein-Hydrogen Peroxide-Tiron	Bull. Chem. Soc. Jpn. 62, 2536 (1989)
藤田芳一, 森 逸男, 豊 田美奈子, 中橋義弘, 加 藤圭司, 中村昌樹	The Sensitive and Selective Determination of Palladium(II) Based on Ternary Complex Formation with Phloxine and Thiamine	Bull. Chem. Soc. Jpn. 62, 3260 (1989)
森 逸男, 藤田芳一, 豊田美奈子, 生田絹子, 大島潤子, 加藤圭司, 中村昌樹	Zero-order and Third Derivative Spectrophotometric Determination of Iron(III) with 4-(2-Pyridylazo)-resorcinol in the Presence of N-Hexadecylpyridinium Chloride	Anal. Lett. 22, 3097 (1989)
中西豊文, 森 逸男, 藤田芳一, 藤田絹子	Protein Assay Using Xanthene Dyes-Metal-Complex (4)	J. Pharmacobiodyn. 12, S-17 (1989)
千熊正彦, 西嶋三栄子	A Highly Selective Method for the Separation of Fluoride Ion by Ion-exchange Resin Loaded with a Lanthanum Complex of Alizarin Complexane: Deferoxamine as a Masking Agent for Aluminum	Fluoride 22, 66 (1989)
千熊正彦, 西村三栄子, 他	Determination of Selenium(IV) and Other Forms of Selenium Dissolved in Sea Water by Anion exchange Resin Loaded with Sulfonic Acid Derivative of Bismuthiol-II and Hydride Generation Atomic-absorption Spectrometry	Fresenius' Z. Anal. Chem. 333, 102 (1989)
千熊正彦, 他	Separation and Determination of Theophylline from Paraxanthine in Human Serum by Reversed-phase High performance Liquid Chromatography	J. Pharm. Biochem. Anal. 7, 965 (1989)
千熊正彦, 他	Simple Flow System for the Rapid Pre-concentration and Potentiometric Determination of Fluoride Using a Micro-column and a Wall-jet Electrode	Analyst 114, 1267 (1989)
大桃善朗, 田中千秋, 他	Design, Synthesis and ⁶⁴ Cu Labeling of Fatty Acid Analogs Containing Dithiosemicarbazone Chelate	Appl. Radiat. Isot. 40, 745 (1989)

著 者	論 文 題 目	掲 載 誌
大桃善朗, 奥山慎一郎, 植野容子, 田中千秋, 他	Radioiodinated Phenoxyacetic Acid Derivatives as Potential Brain Imaging Agents. I. Efficient Synthesis via Trimethylsilyl Intermediates	Chem. Pharm. Bull. 37, 2276 (1989)
大桃善朗, 奥山慎一郎, 植野容子, 田中千秋, 他	Radioiodinated phenoxyacetic Acid Derivatives as Potential Brain Imaging Agents. II. Structure-Biodistribution Relationship	Chem. Pharm. Bull. 37, 2282 (1989)
木村捷二郎, 秦松明子	³² P, ³⁵ S, ⁴⁵ Caを含む乳化シンチレータ廃液の焼却のための塩析による処理	Radioisotopes 38, 24 (1989)
木村捷二郎, 秦松明子, 他	医薬品の放射線滅菌に関する問題点と研究の現状	第3回放射線プロセスシンポジウム講演集 83 (1989)
木村捷二郎, 他	Relationships between The Concentrations of Natural Radionuclides and The Mineral Composition of The Surface Soil	Radiat. Prot. Dosim. 24, 69 (1988)
有本正生, 山口秀夫, 藤田榮一	Diazidation of Allylsilanes with a Combination of Iodosylbenzene and Trimethylsilyl Azide. and Syntheses of Allyl Azides	Chem. Pharm. Bull. 37, 3221 (1989)
田之口真理子, 加島龍彦, 雑賀英之, 井上大志, 有本正生, 山口秀夫	Studies on the Constituents of the Seeds of <i>Hernandia ivigera</i> L. VII. Syntheses of (±) Hernolactone and (±)-Hernandin	Chem. Pharm. Bull. 37, 68 (1989)
沼田 敦, 楊 培明, 高橋千佳, 藤木陵子, 難波江倫子, 藤田榮一	Cytotoxic Triterpens from a Chinese Medicine, Gorceishi	Chem. Pharm. Bull. 37, 648 (1989)
田中麗子, 松永春洋, 他	A New Flavanone Derivative from the Leaves of <i>Tsuga diversifolia</i>	Planta Medica, 55, 570 (1989)
田中麗子, 松永春洋, 石田寿昌, 他	Four Novel 3,4- <i>seco</i> Triterpenoids, Espinendiols A and B, Espinnoxide and Trisnor-isoespinnoxide from <i>Euphorbia supina</i>	Tetrahedron Lett. 30, 1661 (1989)
田中麗子, 松永春洋	Loliolide and Olean-12-en-3 β , 9 α , 11 α -triol from <i>Euphorbia supina</i>	Phytochemistry 28, 1699 (1989)
田中麗子, 松永春洋	Supinenolones A, B and C, Fernane Type Triterpenoids from <i>Euphorbia supina</i>	Phytochemistry, 28, 3149 (1989)
藤田榮一, 他	Effect of Silica Gel on the Benzenesulfinic Acid Catalyzed Isomerization of Vinylsilanes. Formation of Silyl Benzenesulfinate	J. Org. Chem. 54, 2346 (1989)
藤田榮一, 他	Oxidative Grob Fragmentation of γ -Tributylstannyl Alcohols with a Combination of Iodosylbenzene, Dicyclohexylcarbodiimide, and Boron Trifluoride	J. Org. Chem. 54, 4832 (1989)
藤田榮一, 他	Terpenoids. II. Structures of Antitumor Diterpenoids, Trichorabdals A-F. Isolated from <i>Rabdosia trichocarpa</i>	Chem. Pharm. Bull. 37, 1465 (1989)

著 者	論 文 題 目	掲 載 誌
藤田榮一、他	Terpenoids. LII. The Structures of Trichorabdals F, Trichorabdals G Acetate, and Trichorabdals H. A Comment on the Structure of Shikodonin	Chem. Pharm. Bull. 37, 1470 (1989)
藤田榮一、他	Terpenoids. LIII. Antitumor Activity of Trichorabdals and Related Compounds	Chem. Pharm. Bull. 37, 1472 (1989)
米田竜司、春沢信哉、栗原拓史	Cyanophosphate: An Efficient Intermediate for Conversion of Carbonyl Compounds to Nitriles	Tetrahedron Lett. 30, 3681 (1989)
春沢信哉、黒川登志子、藤井晴美、米田竜司、栗原拓史	New Route to (z)-Allylic Sulfides via A 10-Membered Thiolcarbonate	Chem. Pharm. Bull. 37, 2567 (1989)
春沢信哉、柴田哲男、山崎直樹、坂之上里美、石田寿昌、米田竜司、栗原拓史	Novel Transformation of Azabicyclicthionocarbonate to Azaspirolactone	Chem. Pharm. Bull. 37, 2647 (1989)
米田竜司、大崎浩孝、春沢信哉、栗原拓史	Reductive Deoxygenation of α , β -Unsaturated Ketones Via Cyanophosphates by Lithium in Liquid Ammonia	Chem. Pharm. Bull. 37, 2817 (1989)
栗原拓史、佐々木順、山東一孔、中村 豊、米田竜司、春沢信哉	Synthesis of 5-(4-Pyrazolyl and 4-Isoxazolyl) 1, 3-Dihydro-2 H-1, 4-Benzodiazepin-2-ones	Heterocycles 29, 2007 (1989)
浦田秀仁、山本瑛美、赤木昌夫、他	A 2-Deoxyribonolactone-Containing Nucleotide: Isolation and Characterization of the Alkali-Sensitive Photoproduct of the Trideoxyribonucleotide d(ApCpA)	Biochemistry 28, 9566 (1989)
浦田秀仁、赤木昌夫	Mechanism of the Reversal Reaction of Platinated DNA with Thiourea Studied by Platinated 5'-GMP	Biochem. Biophys. Res. Commun. 161, 819 (1989)
大井田文雄、太田長世、三野芳紀、他	Stereospecific Iron Uptake Mediated by Phytosiderophore in Gramineous Plants	J. Am. Chem. Soc. 111, 3436 (1989)
馬場きみ江、米田祐子、小澤 貢、藤田榮一、他	中国産防風の研究(II) クマリン類、クロモン類、ポリアセチレン類による防風類の比較	生薬学雑誌, 43, 216 (1989)
馬場きみ江、多幡祐子、谷口雅彦、小澤 貢	Cumarins from <i>Edgeworthia chrysantha</i>	Phytochemistry 28, 221 (1989)
小延鑑一、松本知子、山本英倫子、沢西謙次	尿毒症螢光物質の細胞エネルギー産生系への阻害効果	日本腎臓学会誌 31, 105 (1989)
井上晴嗣、奥村幸治、辻野美千代、大倉一人、池田 潔、他	Amino Acid Sequences of Cytotoxin-like Basic Proteins Derived from Cobra venoms	FEBS Lett. 257, 319 (1989)
小田俊男、井上晴嗣、池田 潔、他	Amino Acid Sequence of Nerve Growth Factor Purified from the Venom of the Formosan Cobra <i>Naja naja atra</i>	Biochem. Int. 19, 909 (1989)

著 者	論 文 題 目	掲 載 誌
池田 潔, 三宅剛博, 今村光男, 井上晴嗣, 他	Interactions of Monodispersed and Micellar Substrates with a Phospholipase A ₂ from <i>Trimeresurus flavoviridis</i>	J. Biochem. 105, 1044 (1989)
小垣弘之, 井上晴嗣, 池田 潔, 他	Isolation and Fundamental Properties of a Phospholipase A ₂ Inhibitor from the Blood Plasma of <i>Trimeresurus flavoviridis</i>	J. Biochem. 106, 966 (1989)
三宅剛博, 井上晴嗣, 池田 潔, 他	pH Dependence of the Reaction Rate of His 48 with p-Bromophenacyl Bromide and of the Binding Constant to Ca ²⁺ of the Monomeric Forms of Intacts and α-NH ₂ Modified Phospholipases A ₂ from <i>Trimeresurus flavoviridis</i>	J. Biochem. 105, 565 (1989)
藤井 忍, 池田 潔, 他	Role of Ca ²⁺ in the Substrate Binding and Catalytic Functions of Snake Venom Phospholipase A ₂	J. Biochem. 106, 518 (1989)
岡田章子, 山崎(旧姓 戸奈)優子, 後藤重也子, 水谷泰久	3,5-ジシアセチル-1,4-ジヒドロ-2,6-ジメチルピリジンのポーラログラフィーとそのホルムアルデヒド定量への応用	薬学雑誌 109, 564 (1989)
佐久間覚, 他	Calcium Induces Membrane Translocation of 12-Lipoxygenase in Rat Platelets	J. Biol. Chem. 264, 15790 (1989)
藤本陽子, 中谷恵美, 堀之内美奈, 岡本敬子, 佐久間覚, 藤田 直	Inhibition of Paraquat Accumulation in Rabbit Kidney Cortex Slices by Ascorbic Acid	Res. Commun. Chem. Pathol. Pharmacol. 65, 245 (1989)
森本一洋, 深野木信一, 森坂勝昭	Design of Polyvinyl Alcohol Hydrogel as a Controlled-Release Vehicle for Rectal Administration of dl-Propranolol HCl and Atenolol	Chem. Pharm. Bull. 37, 2491 (1989)
森本一洋, 中村孝佑, 森坂勝昭, 他	Effect of Medium-Chain Fatty Acid Salts on Penetration of a Hydrophilic Compound and a Macromolecular Compound across Rabbit Corneas	Arch. Int. Pharmacodyn. Ther. 302, 18 (1989)
森本一洋, 永易 篤, 深野木信一, 森坂勝昭, 他	Evaluation of Polyvinyl Alcohol Hydrogel as a Sustained-Release Vehicle for Rectal Administration of Indomethacin	Pharm. Res. 6, 338 (1989)
森本一洋, 永易 篤, 深野木 信一, 森坂勝昭, 他	Evaluation of PVA Hydrogel as Sustained-Release Vehicle for Transdermal and Rectal Administration of β-Blocker	J. Pharmacobio Dyn. 12, S-29 (1989)
酒井 清, 高崎葉子, 山根敏子, 齋藤友希子, 井川智恵, 他	Effect of Extracts of Zingiberaceae Herbs on Gastric Secretion in Rabbits	Chem. Pharm. Bull. 37, 215 (1989)
酒井 清, 他	Effectiveness of Insulin Suppositories in Diabetic Patients	J. Pharm. Pharmacol. 41, 799 (1989)
酒井 清, 齋藤友希子, 井川智恵, 他	Effect of water Extracts of Aloe and Some Herbs in Decreasing Blood Ethanol Concentration in Pats. II.	Chem. Pharm. Bull. 37, 155 (1989)
西野 隆雄, 他	A New Method for Measuring Ionophoretic Activity Using a Glass-Cell Apparatus Equipped with Artificial Membranes	Chem. Pharm. Bull. 37, 1416 (1989)

著 者	論 文 題 目	掲 載 誌
高岡昌徳, 大山元一, 中村雅胤, 西井幹雄, 森本史郎	Activation of Inactive Kallikrein in the Rat Kidney during low Sodium Intake	Adv. Exp. Med. Biol. 247 B, 131 (1989)
景山正明, 松村靖夫, 林 一孝, 細川忠志, 森本史郎	Diuretic Effect induced by Intrarenal Infusion of Nisoldipine in Anesthetized Dogs	Clin. Exp. Pharmacol. Physiol. 16, 716 (1989)
市原敏夫, 松村靖夫, 慎山浩史, 大山 但, 森本史郎	Effects of Bay K 8644 on Renal Function and Renin Secretion in Anesthetized Rats	Life Sci. 44, 1945 (1989)
森本史郎, 大山 但, 久木一弘, 松村靖夫	Effects of CV-4093, a New Dihydropyridine Calcium Channel Blocker, on Renal Hemodynamics and Function in Stroke-Prone Spontaneously Hypertensive Rats (SHRSP)	Jpn. J. Pharmacol. 51, 257 (1989)
松村靖夫, 久木一弘, 大山 但, 林 一孝, 森本史郎	Effects of Endothelin on Renal Function and Renin Secretion in Anesthetized Rats	Eur. J. Pharmacol. 166, 577 (1989)
松村靖夫, 池川るり子, 大山 但, 林 一孝, 森本史郎	Endothelin Immunoreactivity in Medium from Cultured Porcine Aortic Endothelial cells Cor- relates with the Biological Activity	Biochem. Biophys. Res. Commun. 160, 602 (1989)
景山正明, 松村靖夫, 佐々木康人, 市原敏夫, 細川忠志, 林 一孝, 森本史郎	Inhibitory Effect of Nisoldipine on Angiotensin -II-Induced Renal Actions in Anesthetized Dogs	J. Cardiovasc. Pharmacol. 14, 96 (1989)
西井幹雄, 高岡昌徳, 中村雅胤, 竹信敬史, 森本史郎	Purification and Partial Characterization of a Thiol Proteinase Activating Prokallikrein from the Rat Kidney Cortex	Biochim. Biophys. Acta 990, 138 (1989)
松村靖夫, 中瀬浩治, 池川るり子, 林 一孝, 大山 但, 森本史郎	The Endothelium Derived Vasoconstrictor Pe- ptide Endothelin Inhibits Renin Release in Vitro	Life Sci. 44, 149 (1989)
中野さち子, 玄番宗一	Potentialiation of Cisplatin-Induced Lipid Perox- idation in Kidney Cortical Slices by Glutath- ione Depletion	Jpn. J. Pharmacol. 50, 87 (1989)
福石信之, 玄番宗一	Use of Cultured Renal Epithelial Cells for the Study of Cisplatin Toxicity	Jpn. J. Pharmacol. 50, 247 (1989)
黒田和道, 他	Synthesis of Biologically Active Influenza Virus Hemagglutinin in Insect Larvae	J. Virol. 63, 1677 (1989)
小澤 貢, 辻坊 裕, 馬場きみ江, 稲森善彦, 他	Conversion of Deoxypodophyllotoxin to Podophyllotoxin-related Compounds by Microbes	Agric. Biol. Chem. 53, 777 (1989)
稲森善彦, 小川雅史, 大野由美子, 西畑秀一, 辻坊 裕, 他	The Hypotensive Effect and Antifungal Activ- ity of 3,3-Dihydroxy- α , β -diethyldiphenyleth- ane	Chem. Pharm. Bull. 37, 3137 (1989)
小澤 貢, 辻坊 裕, 稲森善彦, 他	The Conversion of Deoxypodophyllotoxin to Epipodophyllotoxin in Resting Cell System of Penicillium F-0543	Agric. Biol. Chem. 53, 1171 (1989)
吉田嶺吉	Extensions of Ω -Clifford Semigroups	Proc. 13th Symposium on Semi- groups, Kyoto Sangyo Univ. 57 (1989)
望月伸三郎, 大石宏文, 熊本和正	体力診断テストデータのデータベース化 —— 体育指導の基礎研究(VII) ——	ばいでいあ 13, 25 (1989)